

# 発電所内のモニタリング状況等について

2015年11月25日

東京電力株式会社



東京電力

---

# 資料目次

---

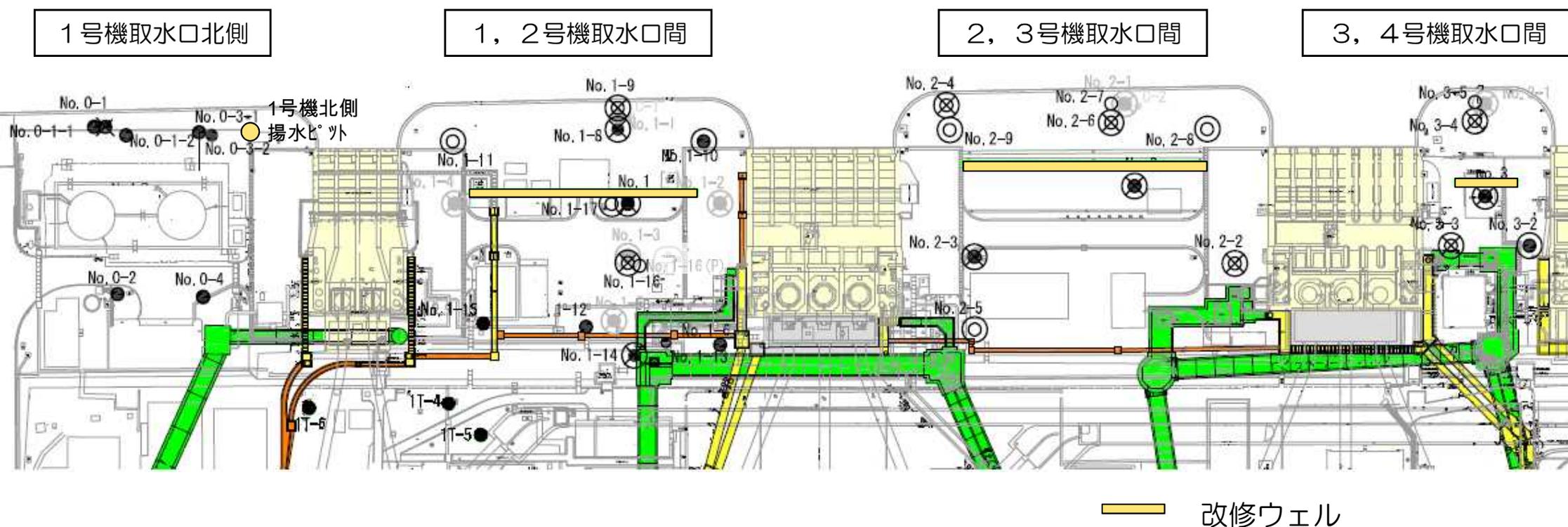
- (1) 港湾内・外および地下水の分析結果について
- (2) 地下水バイパスの運用状況について
- (3) サブドレン他水処理施設の運用状況について

---

## (1) 港湾内・外および地下水の分析結果について

# タービン建屋東側の地下水観測孔の位置

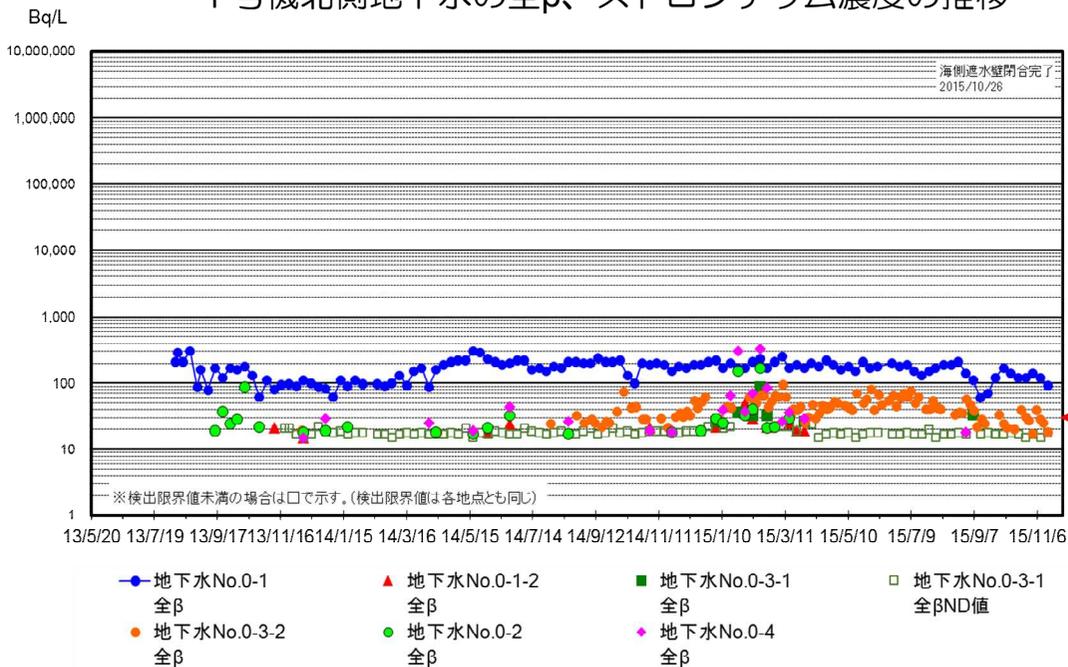
- 前回以降、新たな観測孔の設置、廃止は無い。



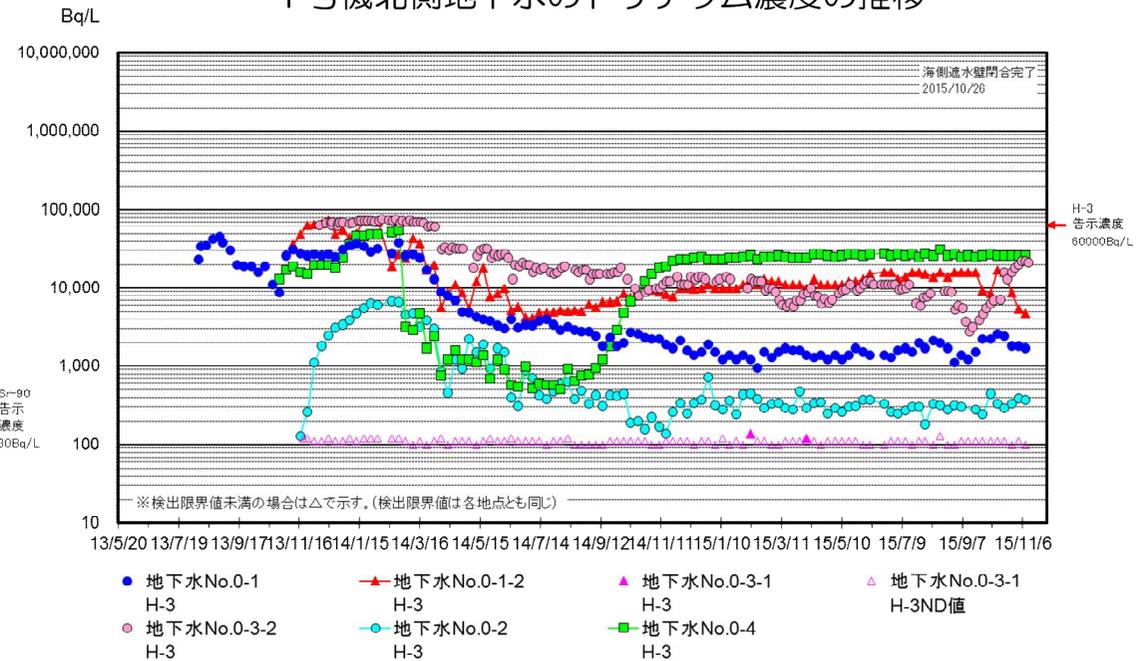
# タービン建屋東側の地下水濃度の状況<1号機取水口北側エリア>

- 一時低下したNo.0-3-2のトリチウム濃度が再度上昇したが、上流側のNo.0-4と同程度。
- 当面監視を継続する。

1号機北側地下水の全β、ストロンチウム濃度の推移

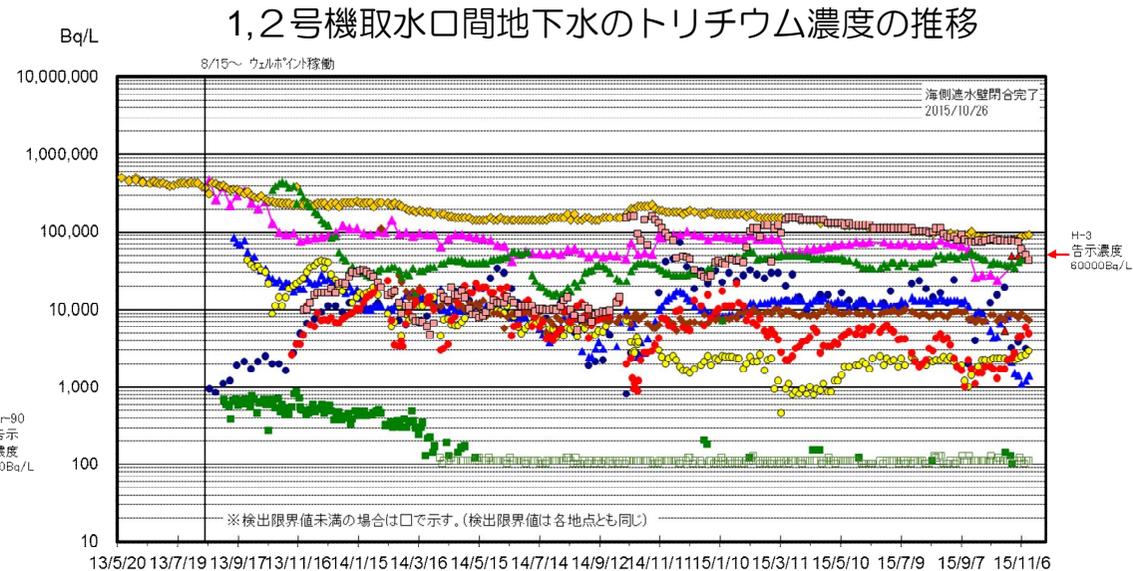
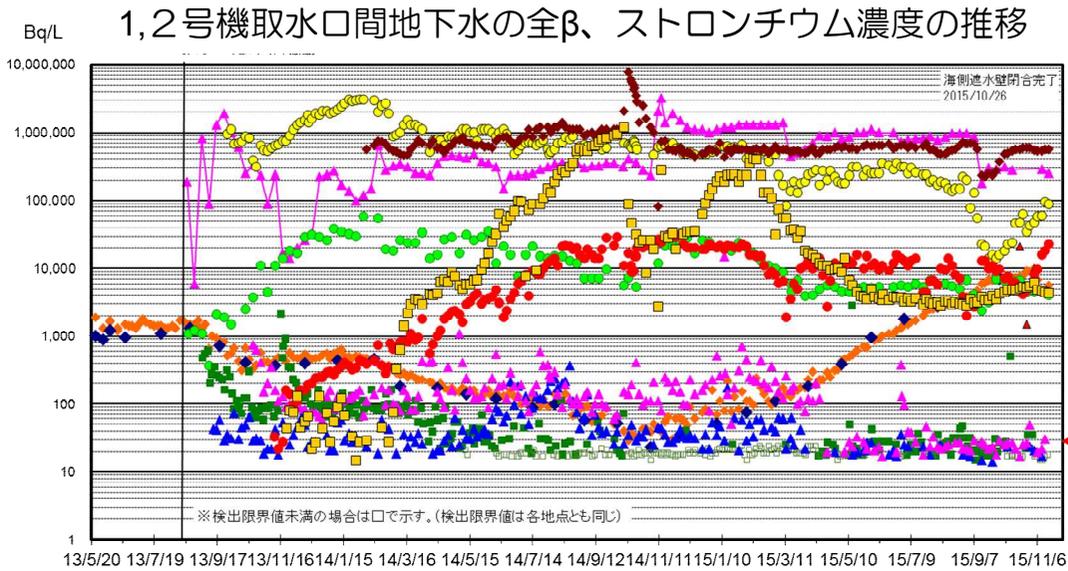


1号機北側地下水のトリチウム濃度の推移



# タービン建屋東側の地下水濃度の状況<1,2号機取水口間エリア>

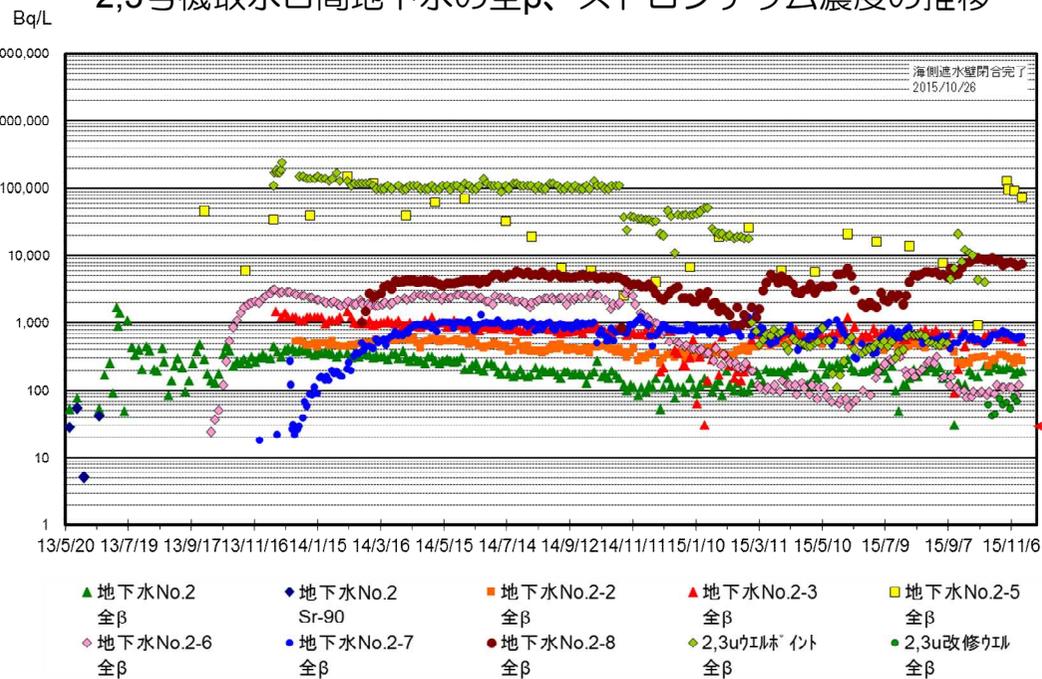
- NO.1-14、No.1-16の全β濃度は、11月に入り上昇。
- トリチウム濃度については、濃度の高いNo.1-17で低下。
- 地盤改良の外側に位置するNo.1-9の濃度は、変動は見られない。
- 当面監視を継続する。



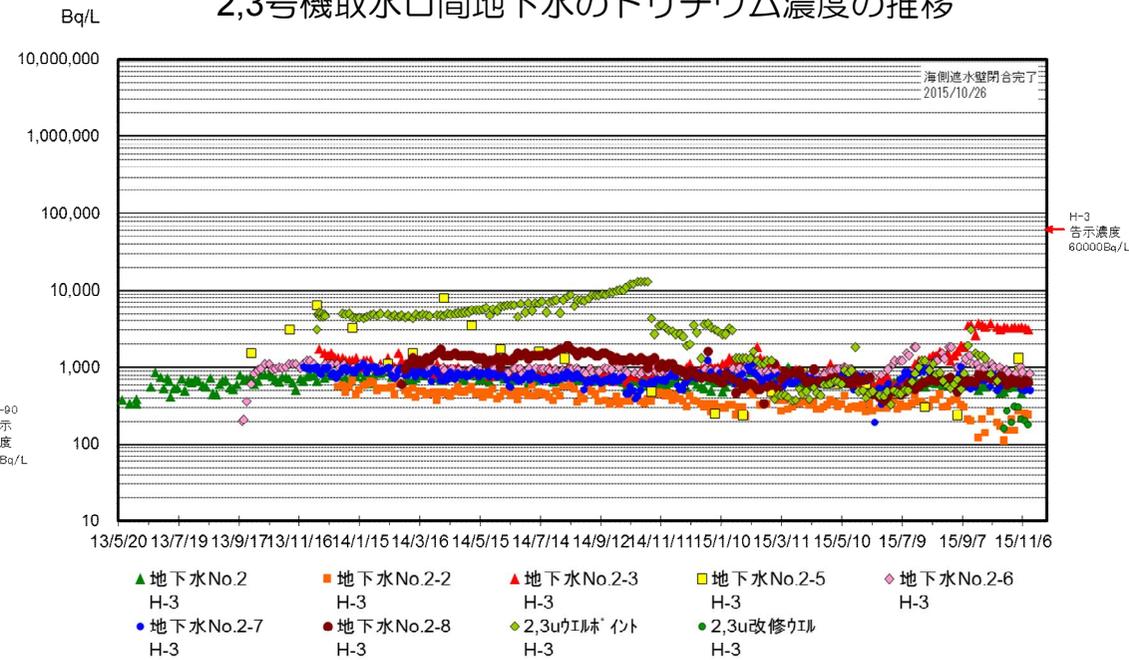
# タービン建屋東側の地下水濃度の状況<2,3号機取水口間エリア>

- No.2-5の全β濃度が11/2に上昇。採取頻度を1回/月から1回/週に増やして監視中。
- 地盤改良の外側の観測孔No.2-7では、全β、トリチウムともに1,000Bq/Lを下回る低濃度。
- 当面、監視を継続する。

2,3号機取水口間地下水の全β、ストロンチウム濃度の推移



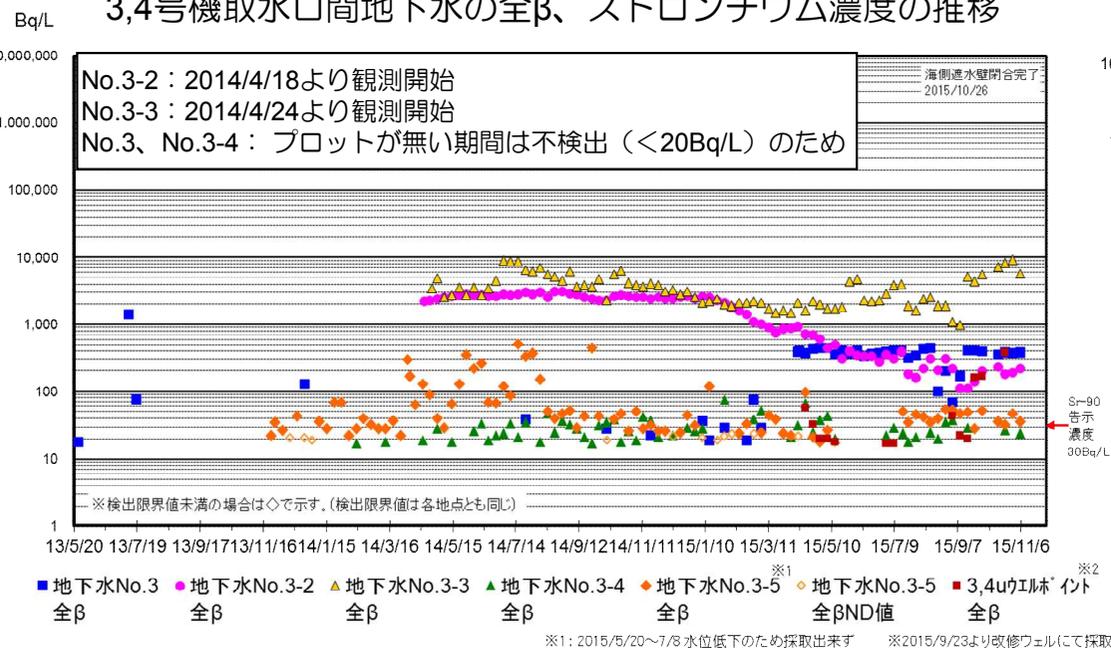
2,3号機取水口間地下水のトリチウム濃度の推移



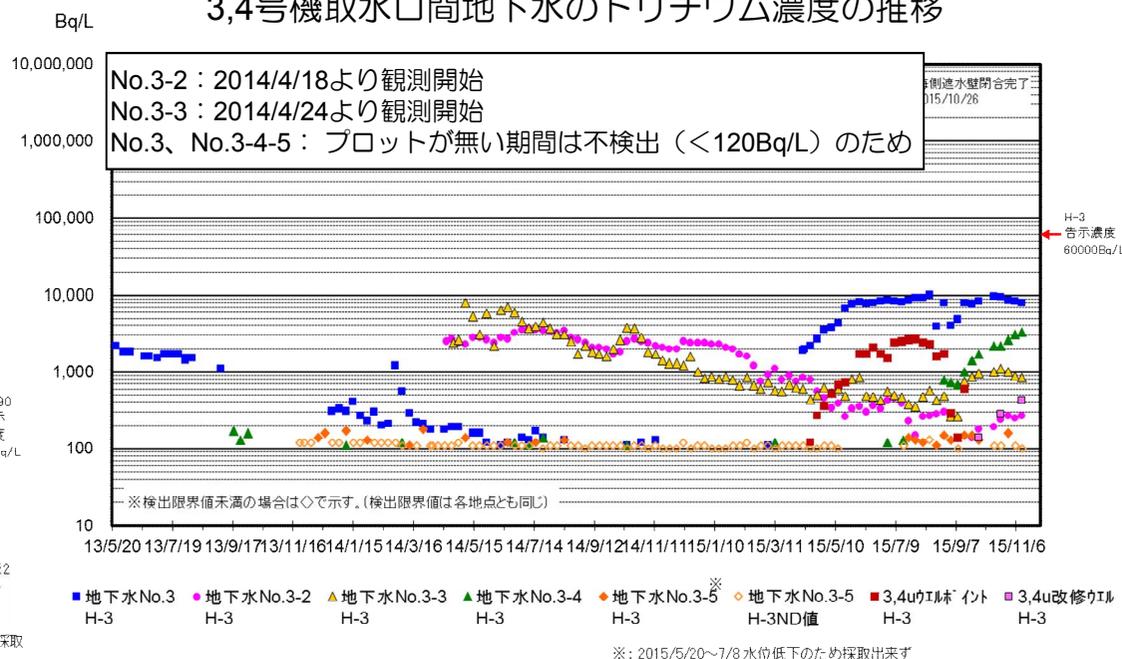
# タービン建屋東側の地下水濃度の状況<3,4号機取水口間エリア>

- 先月以降、No.3-4のトリチウム濃度が上昇したが、上流側（山側）のNo.3に比べれば低い濃度。
- No.3-3の全β濃度が1年前と同じ程度まで上昇。
- 地盤改良外側の観測孔No.3-5では、全β、トリチウムともに100Bq/L程度の低濃度。
- 当面監視を継続する。

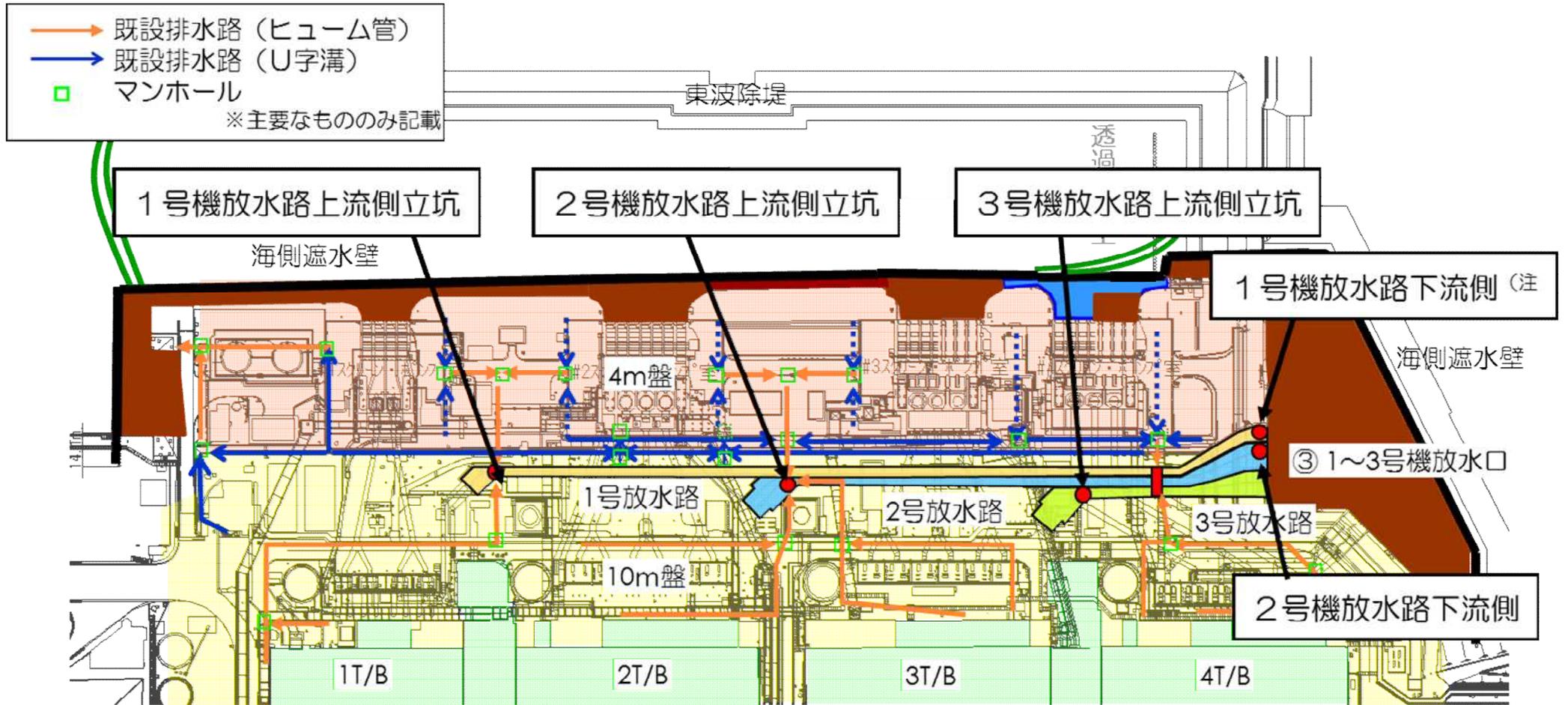
3,4号機取水口間地下水の全β、ストロンチウム濃度の推移



3,4号機取水口間地下水のトリチウム濃度の推移



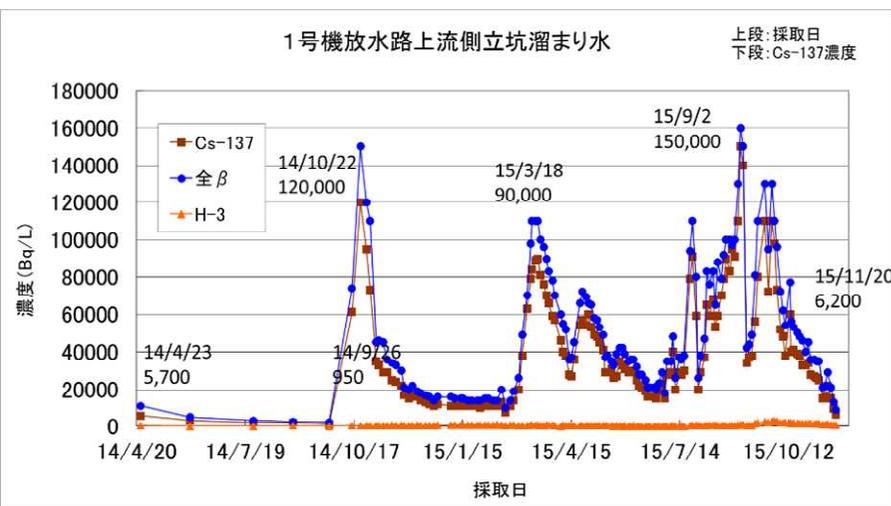
# 1～3号機放水路及びサンプリング位置図（平面図）



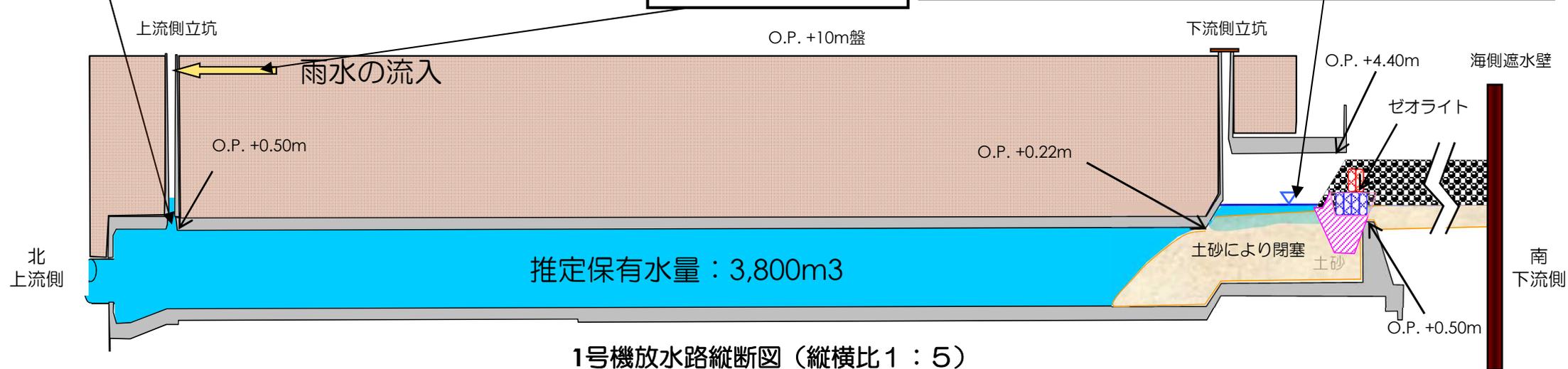
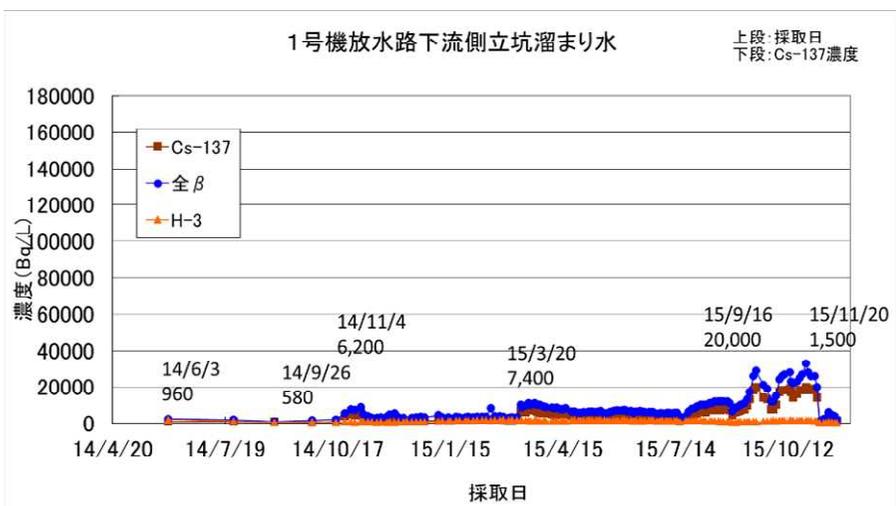
注：ゼオライト土のう設置（2月）以降、放水口から下流側立坑へのアクセス不可のため、放水口上部より採水

# 1号機放水路サンプリング結果

- 10月に低下した上流側立坑溜まり水のセシウム濃度は、11月も低下傾向が継続。
- 放水路下流側溜まり水のセシウム濃度は、11月6日に大きく低下。海側遮水壁の閉合以降、放水口前の埋め立て地の水位が上昇して放水路とほぼ同じ高さになっており、放水口から地下水が流入した可能性がある。
- 11月20日に、モバイル式処理装置の使用前検査終了証を受領。準備が整い次第浄化を開始する予定。



1号機上流側立坑流入水  
(1号T/Bル-7ドレ)  
・T/B東側地表  
調査日：14/10/6  
Cs134：420  
Cs137：1500  
全β：1400  
H3：9.9  
(単位：Bq/L)



1号機放水路縦断面図（縦横比1：5）

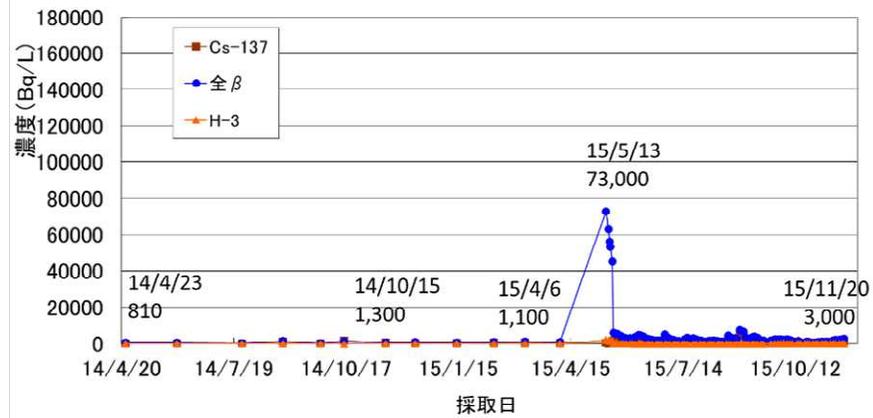
注：放水口へのゼオライト設置により、放水口内への立ち入りができなくなったことから、3/20より放水口上部開口部から採水することとした。

# 2号機放水路サンプリング結果

- 2号機放水路上流側立坑の溜まり水の全ベータ濃度は、セシウム濃度とほぼ同じ程度で推移。5月のような急上昇はみられていない。
- 下流側（放水口）の濃度も低濃度で、上昇は見られない。

2号機放水路上流側立坑溜まり水

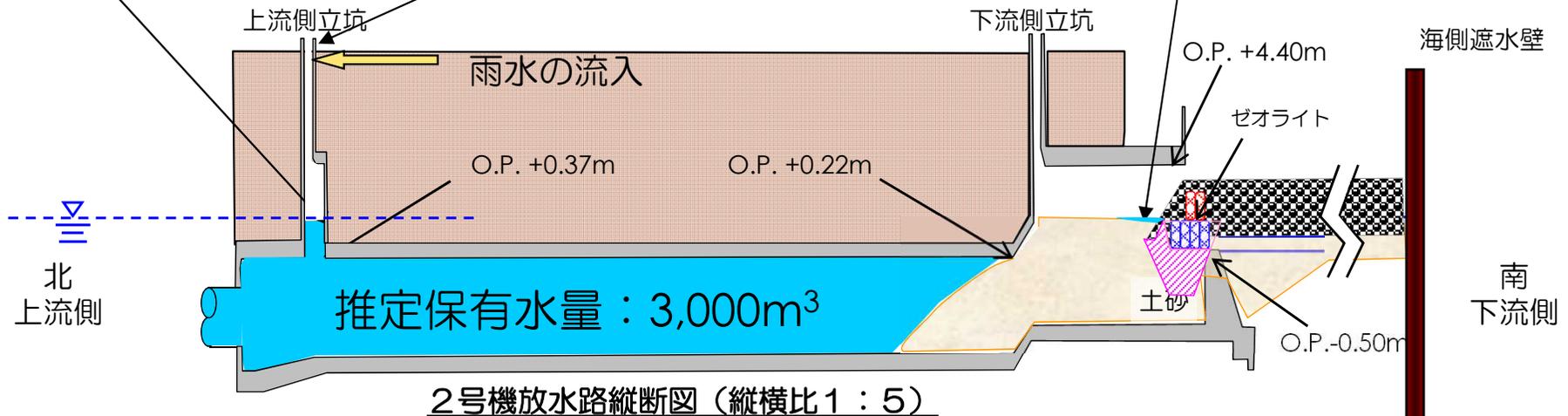
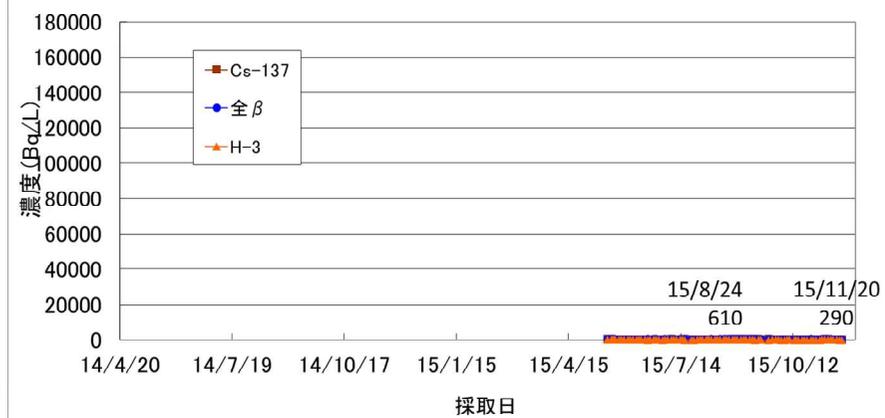
上段:採取日  
下段:全ベータ濃度



2号機上流側立坑南側流入水  
(3号T/B側流入)  
 ・T/B東側地表  
 調査日: 15/5/19  
 Cs134: 1,500  
 Cs137: 5,700  
 全β: 7,700  
 H3: ND(110)  
 (単位: Bq/L)

2号機放水路下流側溜まり水

上段:採取日  
下段:全ベータ濃度



# 3号機放水路サンプリング結果

- 3号機放水路上流側立坑溜まり水のセシウム濃度は、降雨により若干の上下はあるものの、1,000～2,000Bq/L程度で推移。
- 引き続きモニタリングを継続する。



3号機上流側立坑流入水  
(3号S/Bル-ドレ・T/B東側地表)

調査日: 14/6/12

Cs134	: 1,400
Cs137	: 4,100
全β	: 4,800
H3	: ND(9.4)

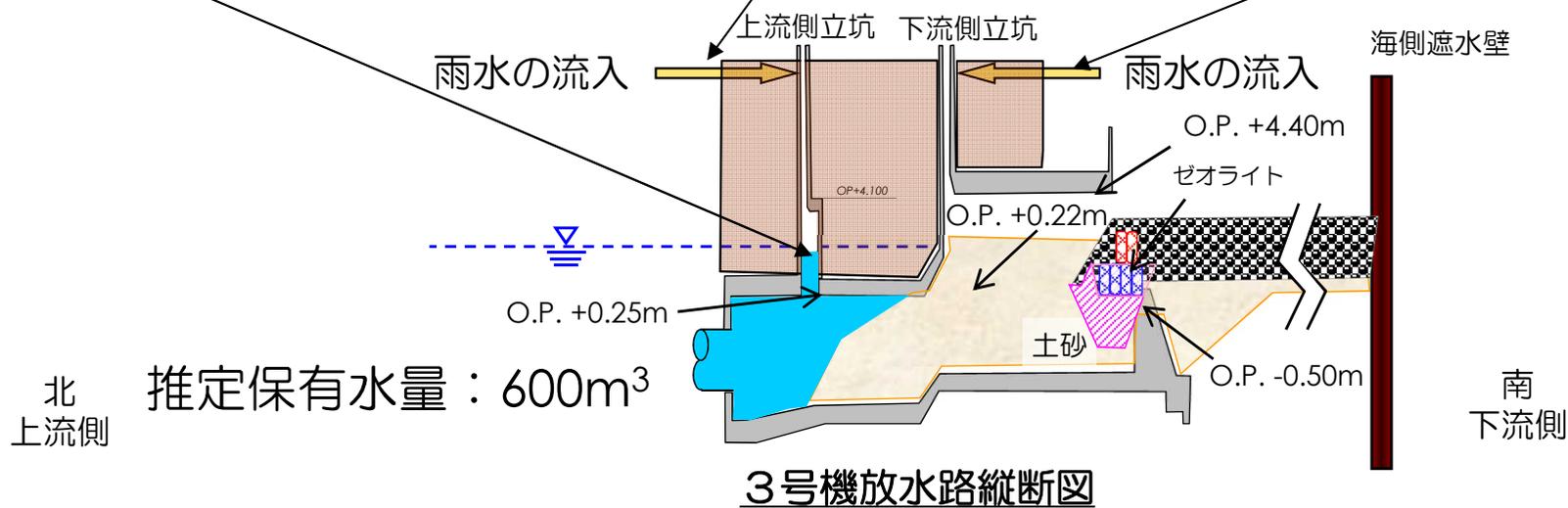
(単位: Bq/L)

3号機下流側立坑流入水  
(4号T/B建屋周辺雨水)

調査日: 14/6/12

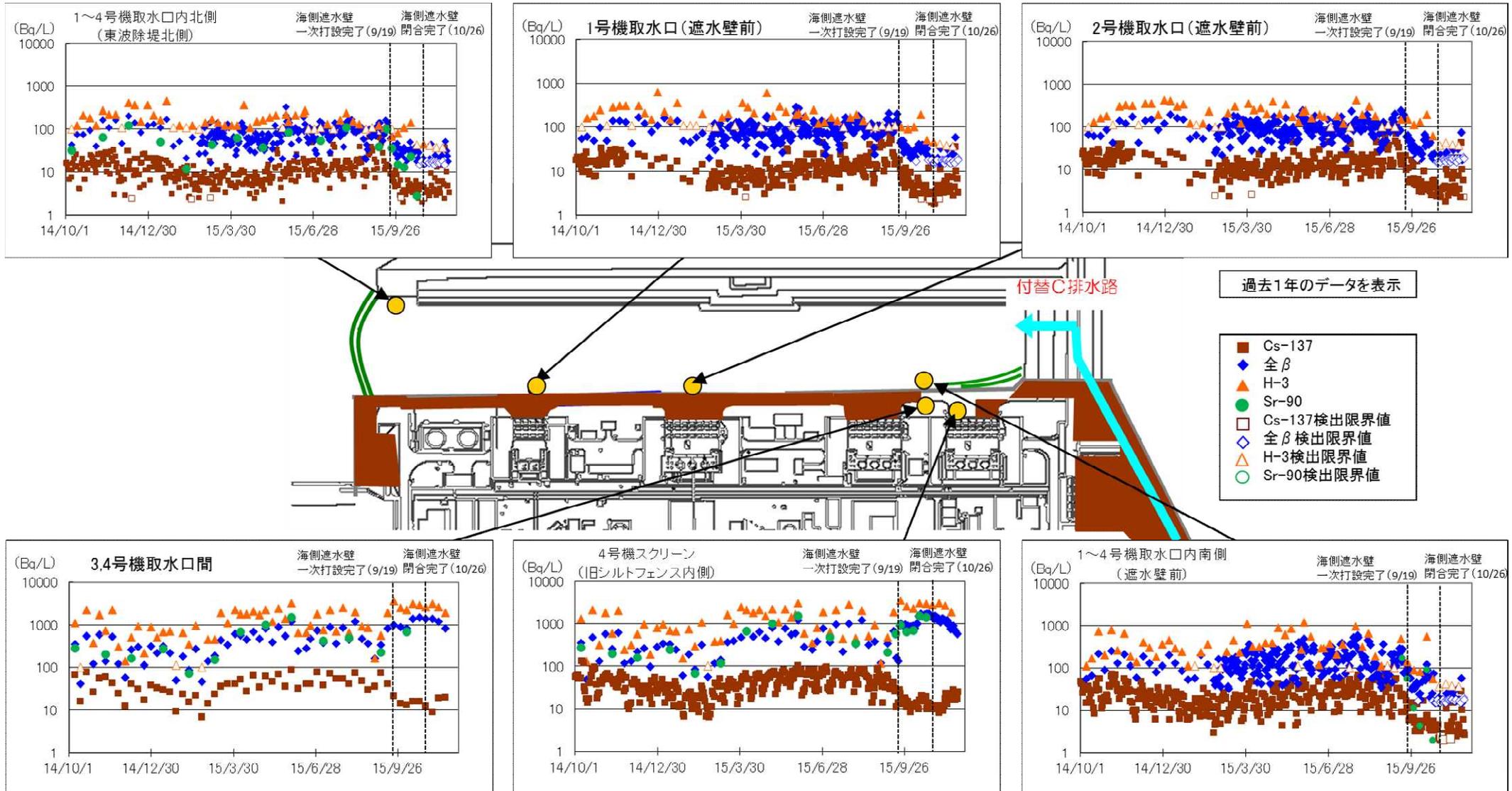
Cs134	: 1,000
Cs137	: 2,800
全β	: 3,900
H3	: 13

(単位: Bq/L)



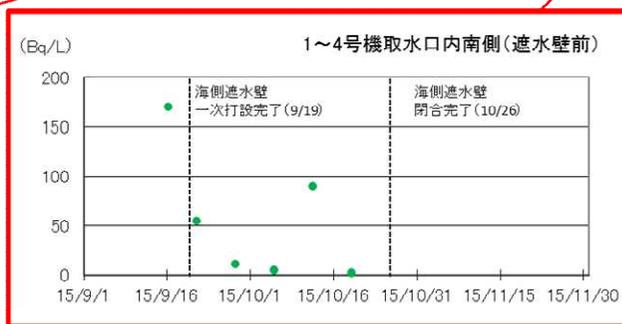
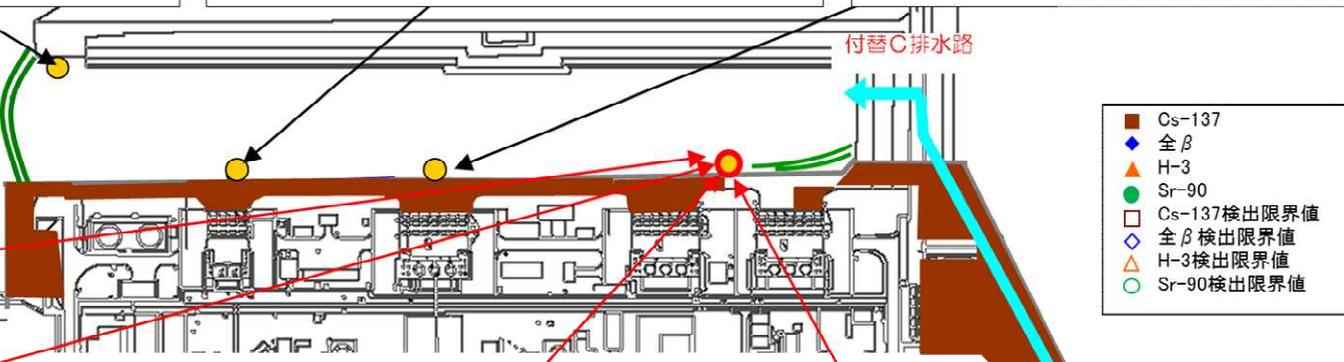
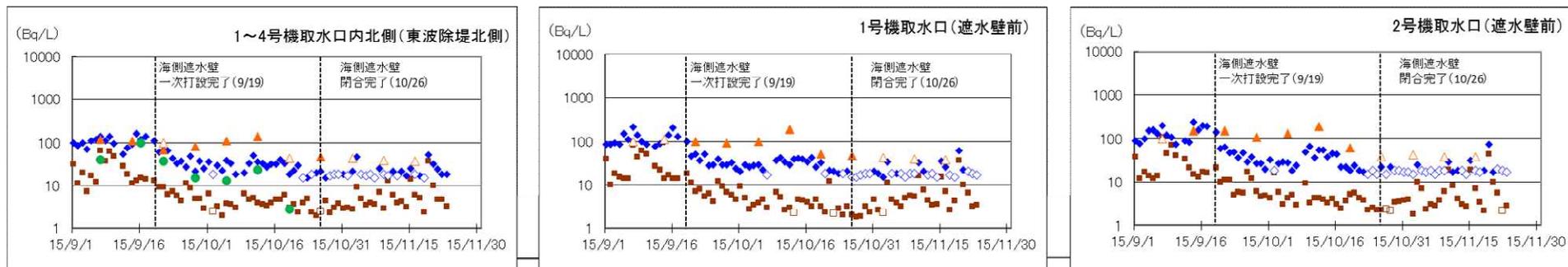
# 1～4号機取水口付近の海水サンプリング結果

- 海側遮水壁閉合以降、1～4号機取水口付近の海水では、セシウム、全β濃度、ストロンチウム濃度が低下。11月からはトリチウム濃度も低下。
- 降雨時に、一時的な上昇が見られる場合もあるが、海側遮水壁閉合後の濃度低下が継続。



# 1～4号機取水口付近の海水サンプリング結果（海側遮水壁閉合前後）

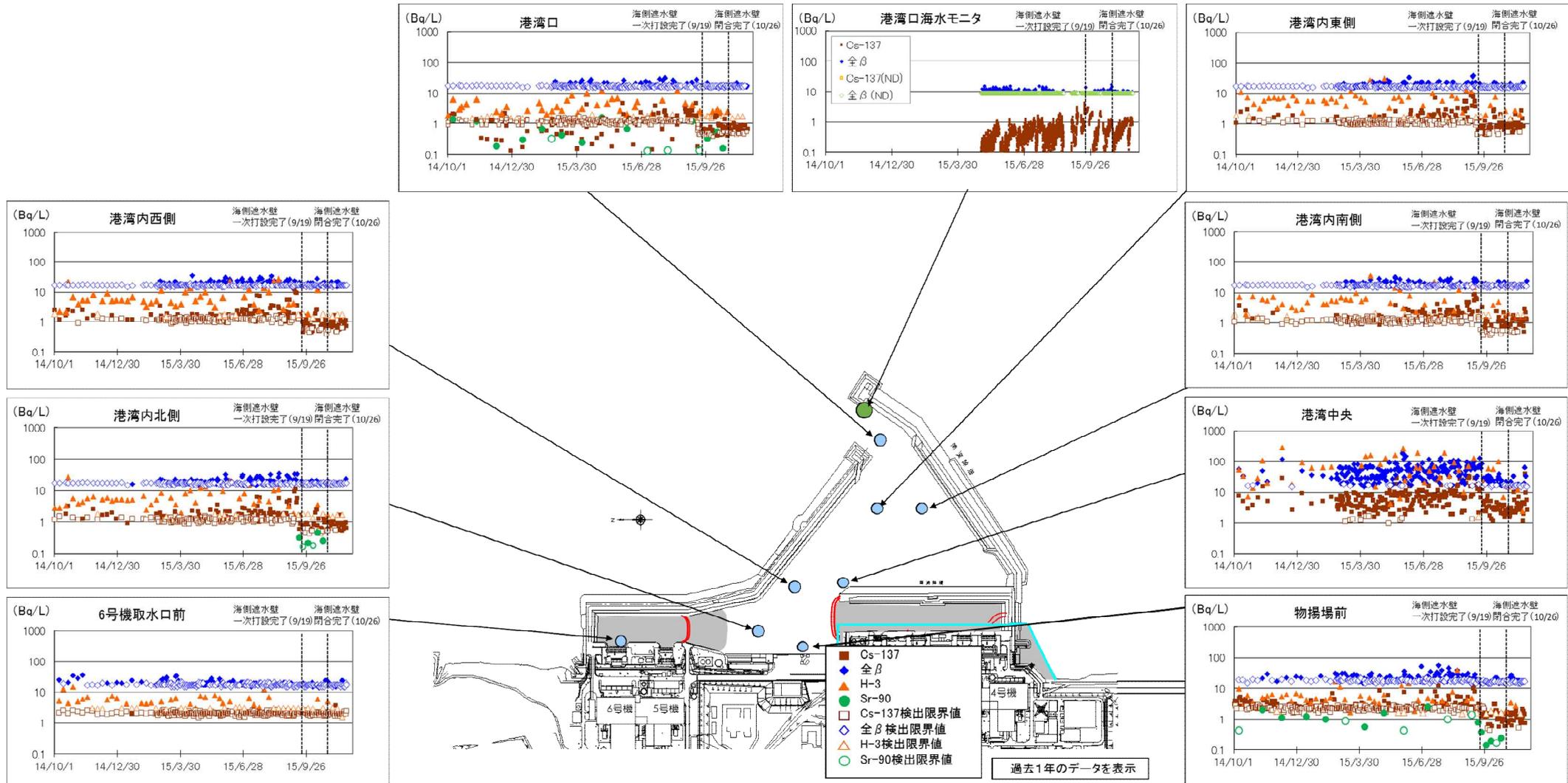
【告示濃度】Cs-137:90Bq/L, Sr-90:30Bq/L, H-3:60000Bq/L



※1～4号機取水口内南側（遮水壁前）は、最後に遮水壁閉合を実施した箇所。  
海水のサンプリング地点としては、閉合完了まで、地下水の影響を最も受けていた箇所。

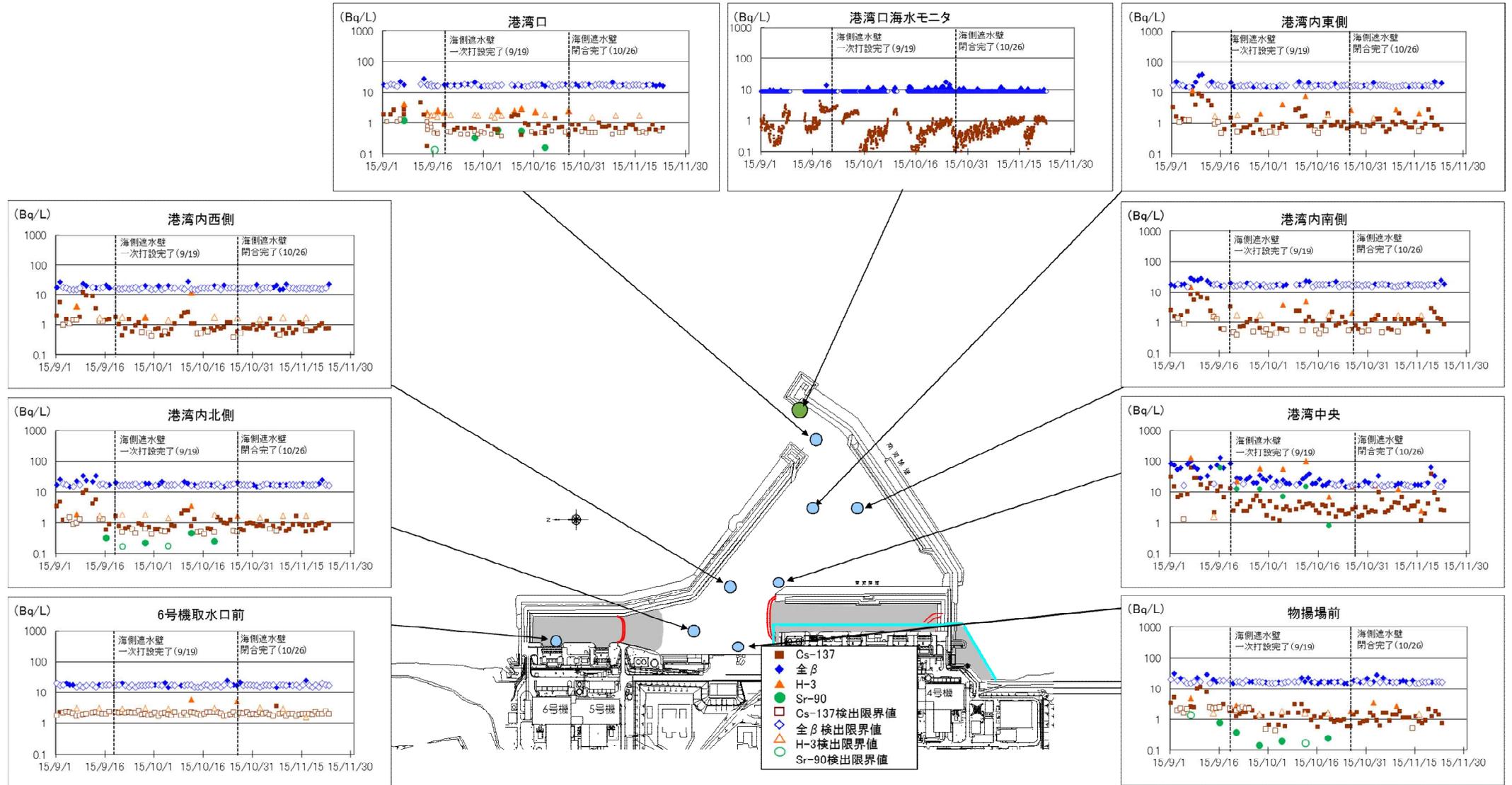
# 港湾内の海水サンプリング結果

- 1～4号機取水口付近同様、海側遮水壁閉合以降、1～4号機取水口に近い採取点を中心に、セシウム、全β濃度、ストロンチウム濃度が低下。11月以降、トリチウム濃度の低下も見られる。
- 降雨時に、一時的な上昇が見られる場合もあるが、海側遮水壁閉合後の濃度低下が継続。



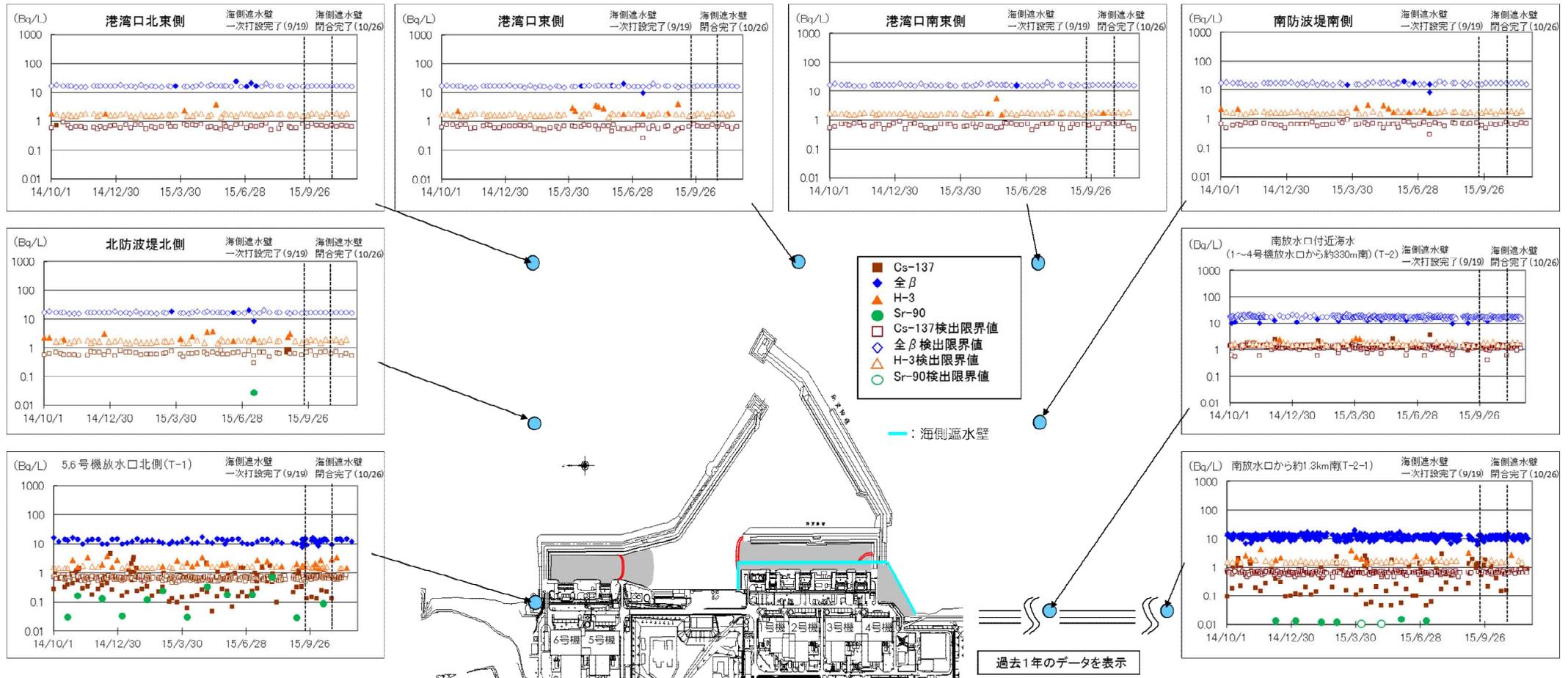
※ 港湾口海水モニタの検出下限値は、Cs-137が0.05Bq/L、全βが8.7Bq/Lであり、Cs-137の検出下限値はグラフの下限値未満でありプロットされていない。

# 港湾内の海水サンプリング結果（海側遮水壁閉合前後）



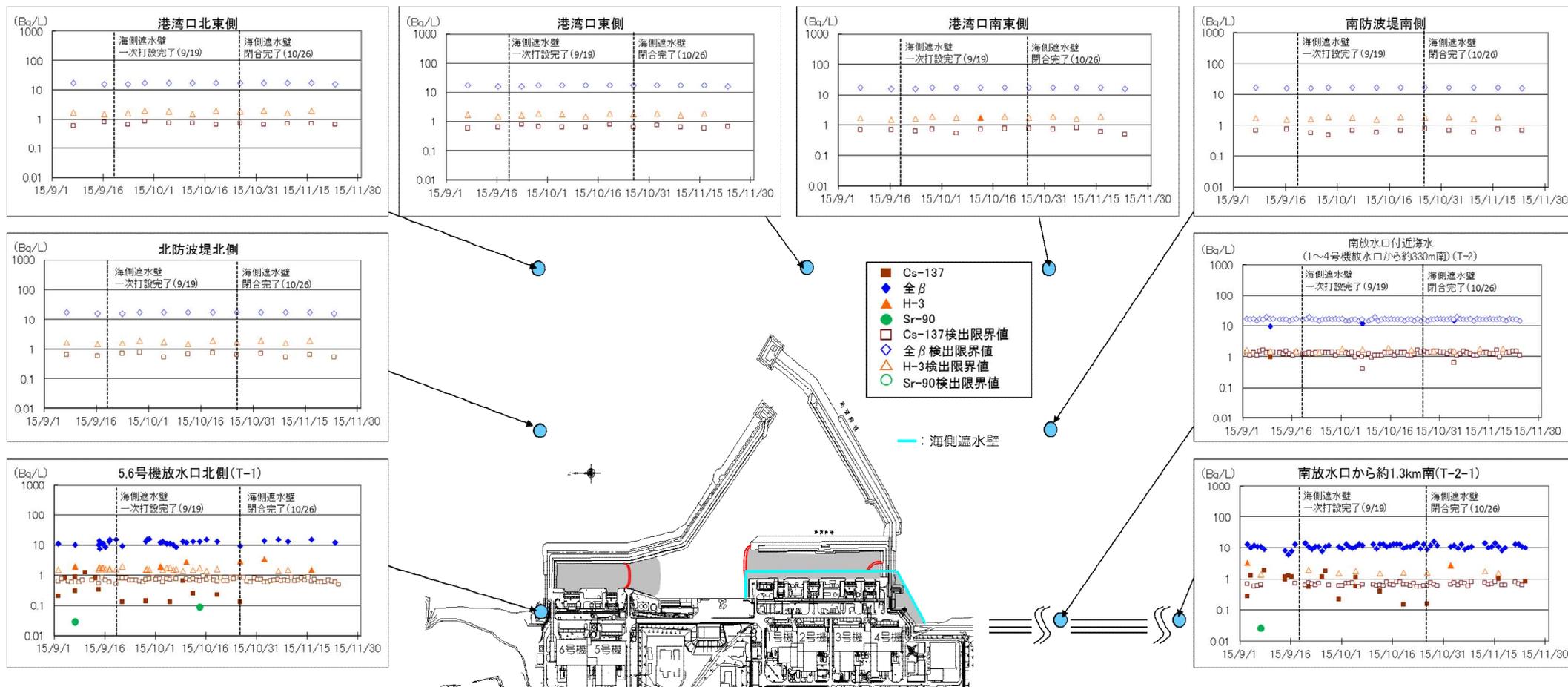
# 港湾外（周辺）の海水サンプリング結果

■ 港湾外の各採取点は、従来より低濃度であり、ほとんどが検出限界未満を継続。



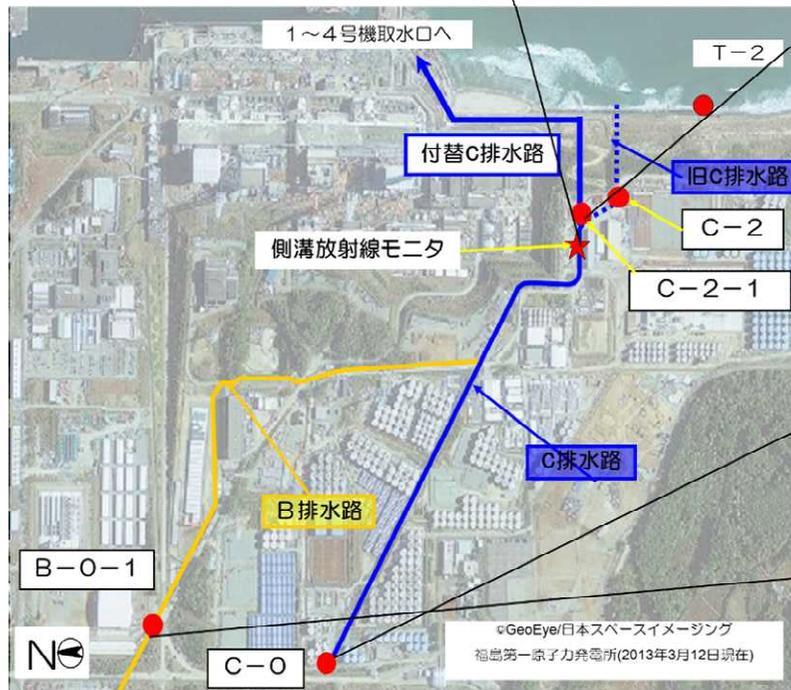
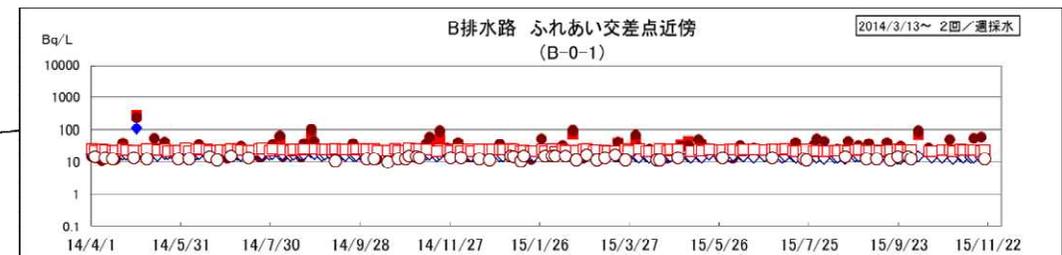
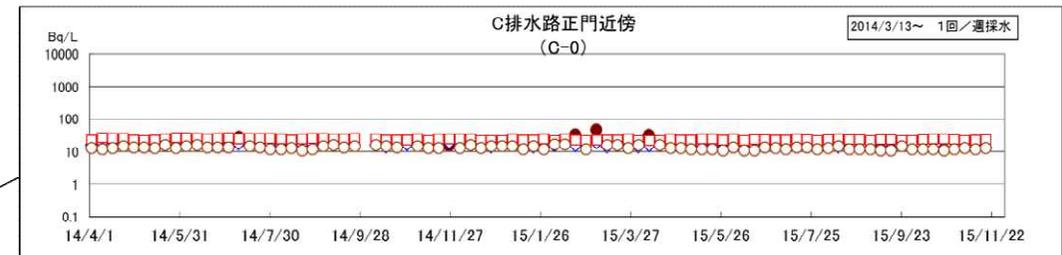
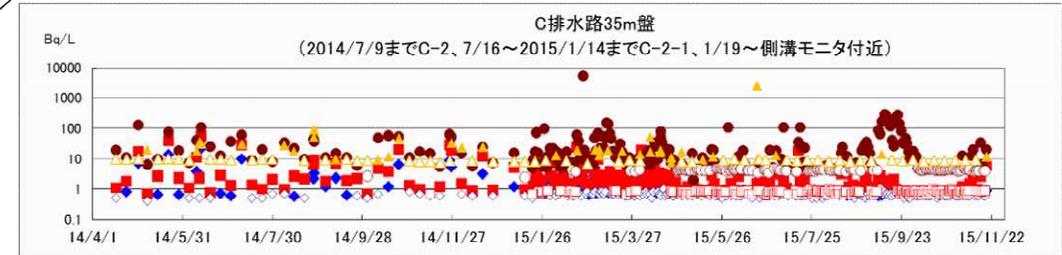
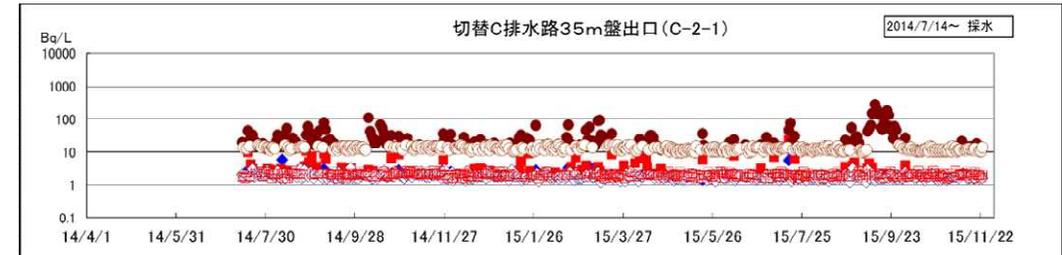
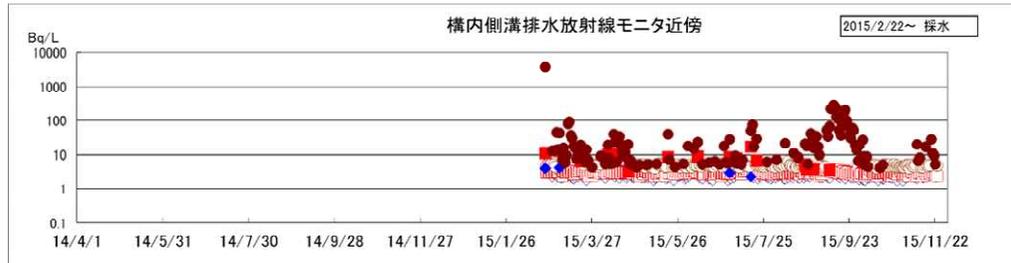
注：海域における10Bq/L前後の全β放射能の検出は、海水中の天然カリウム（十数Bq/L）の影響を受けているものと考えられる。

# 港湾外（周辺）の海水サンプリング結果（海側遮水壁閉合前後）



# 排水路の放射能濃度推移（その1 BC排水路）

■ 先月以降、特に大きな濃度上昇は見られていない。

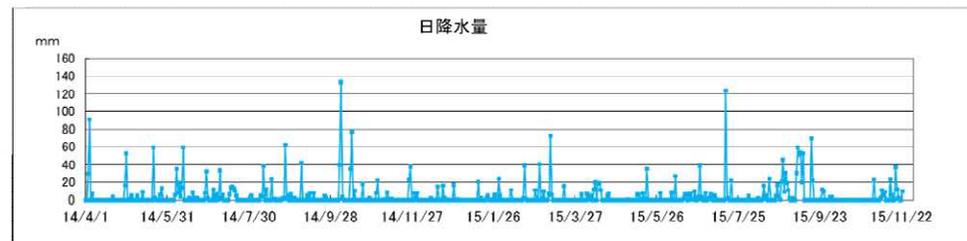
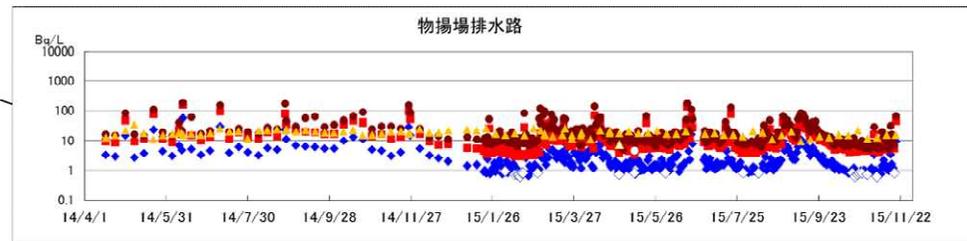
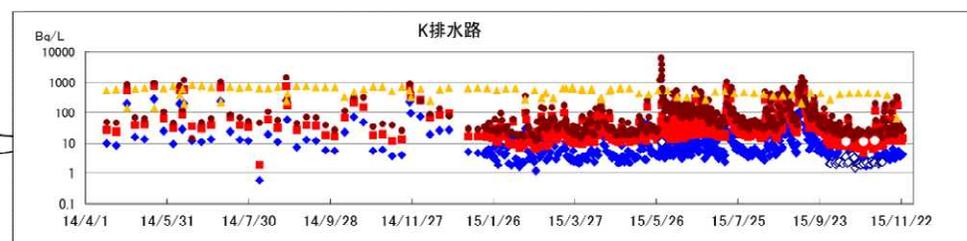
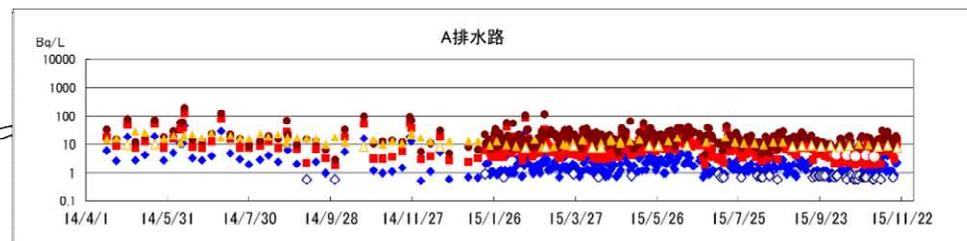


# 排水路の放射能濃度推移 (その2 K排水路、A排水路、物揚場排水路)

- K排水路、物揚場排水路は、降雨時に若干の濃度上昇が見られた。
- A排水路は横這い状況。



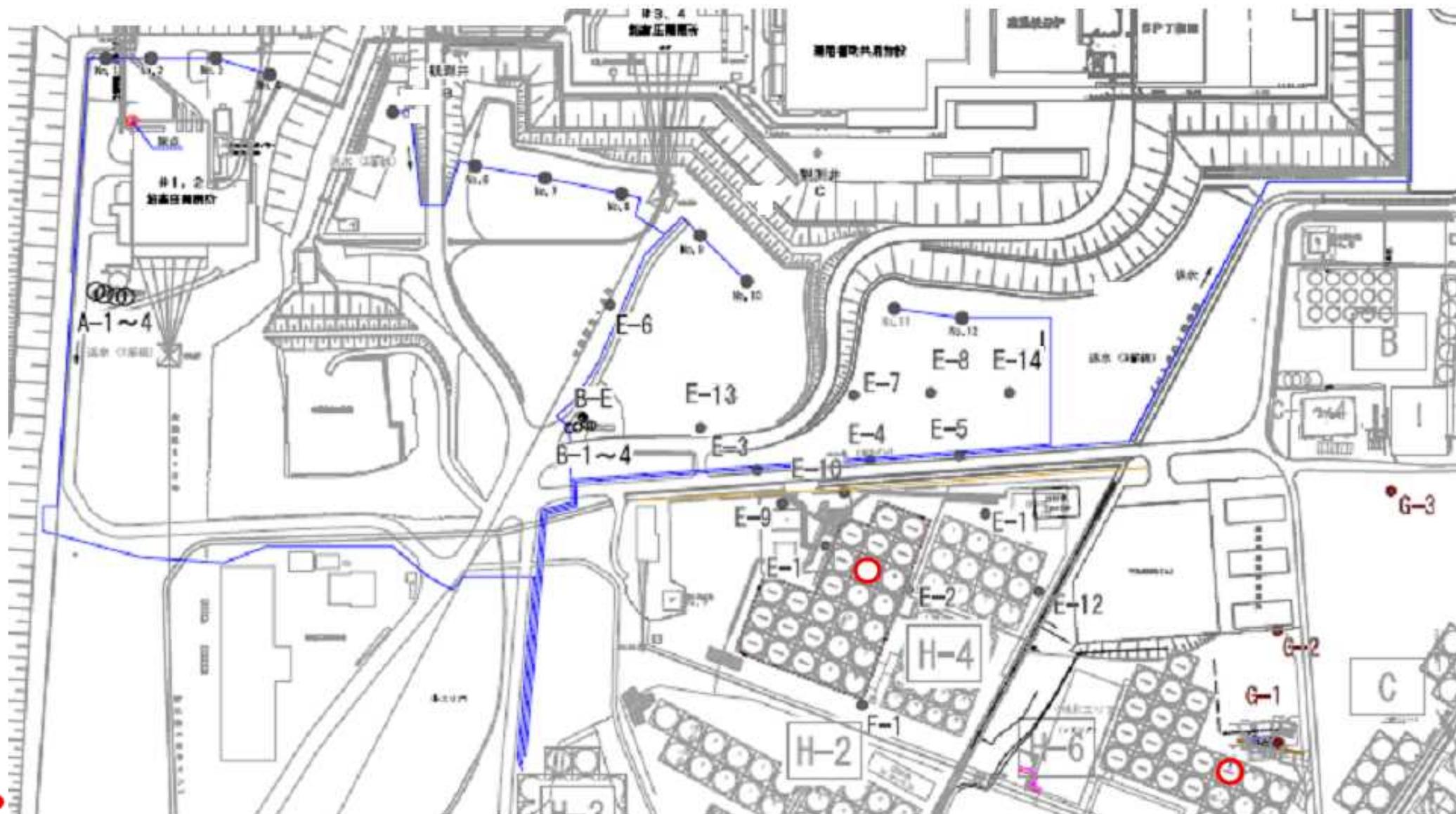
- 採水地点 (2015年1月14日以前)
- 採水地点 (2015年1月19日以降)



# タンクエリア周辺の状況

# タンクエリア周辺の地下水観測孔等の位置

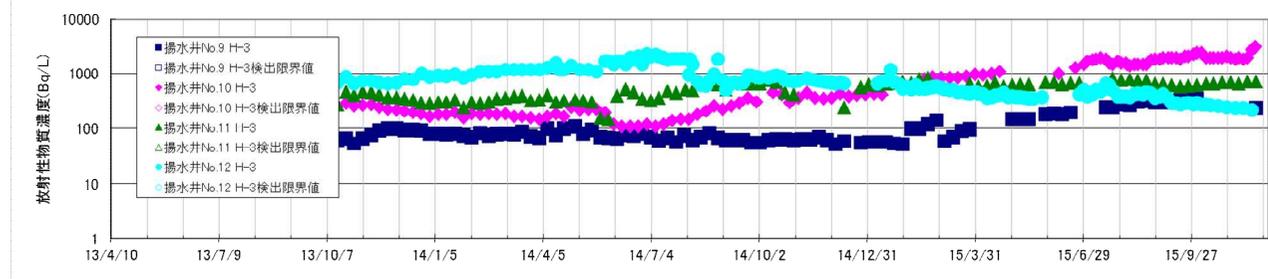
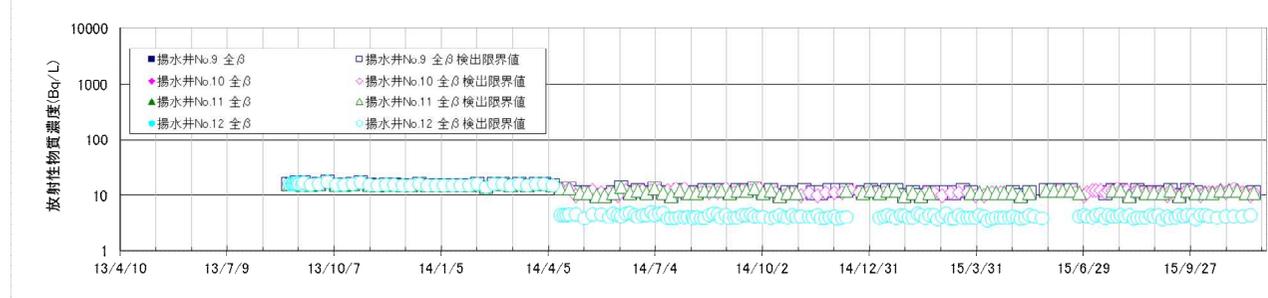
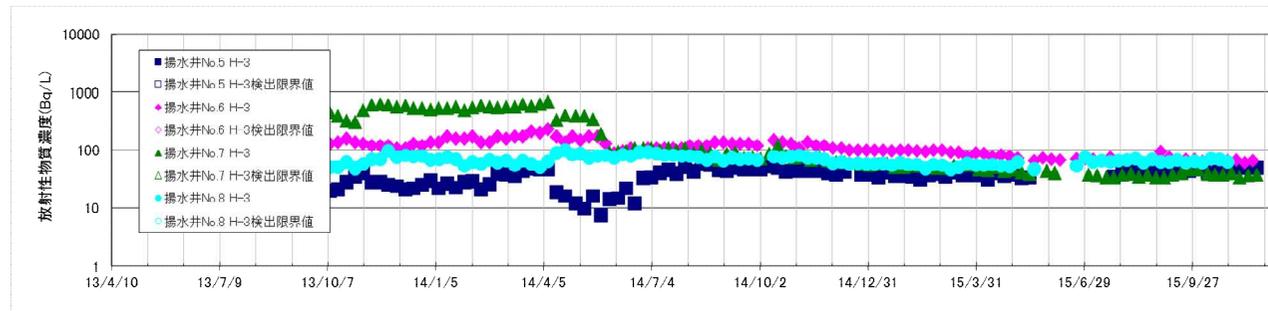
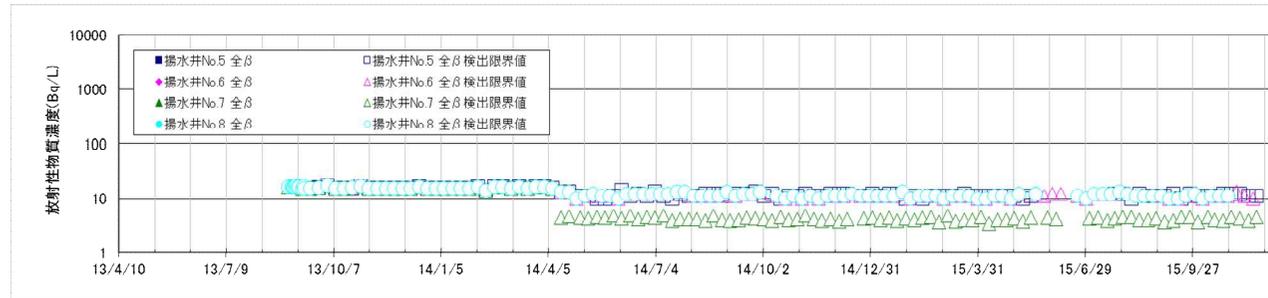
- 先月以降、新たな観測孔の追加は無い。



# 地下水バイパス揚水井の放射能濃度推移

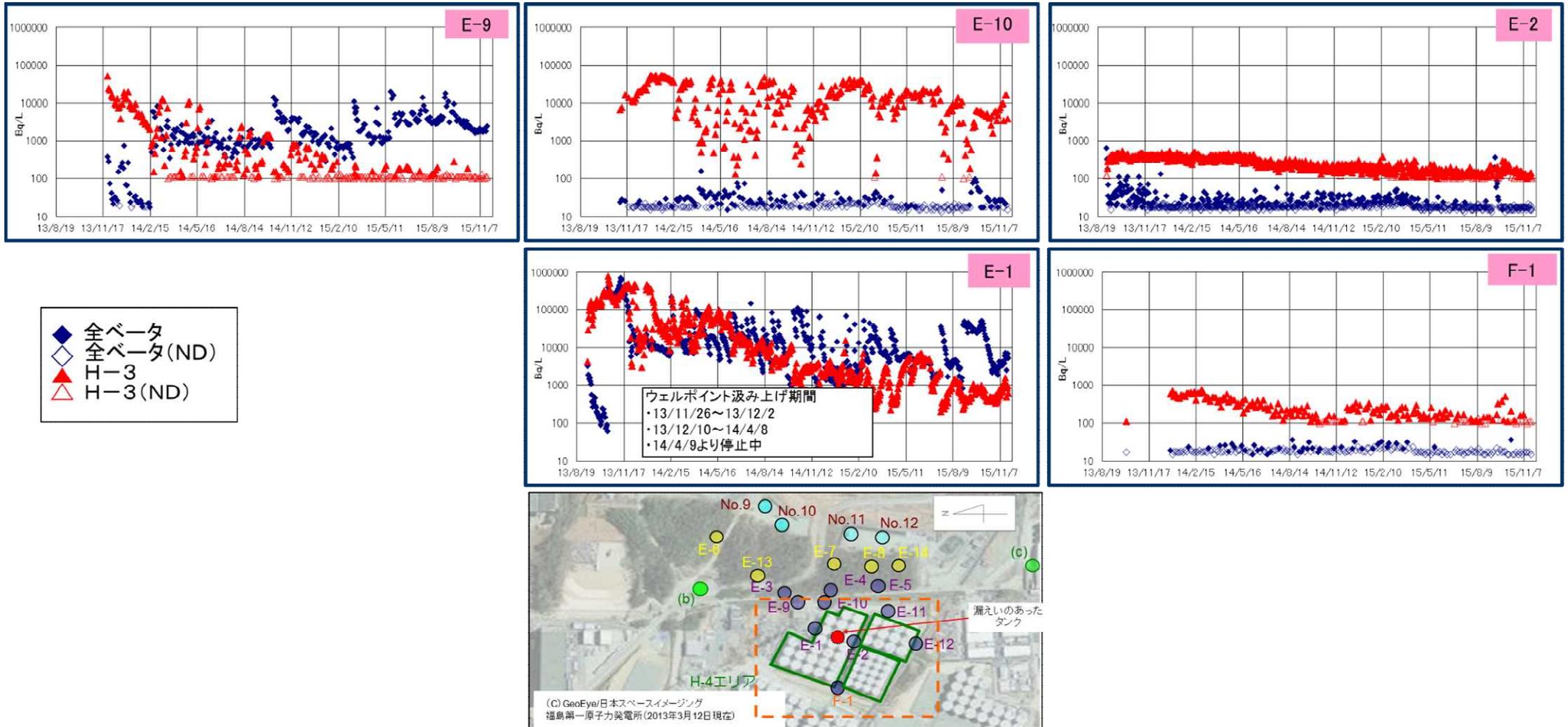
- 地下水バイパス揚水井No.10のトリチウム濃度が、3,000Bq/L程度まで上昇。
- その他の揚水井は、1,000Bq/L以下で推移。
- 全βには特に変化はみられていない。
- 引き続きモニタリングを継続する。

<地下水バイパス揚水井、追加ボーリング>



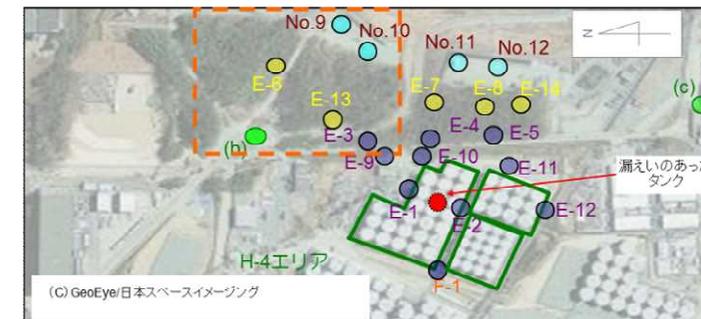
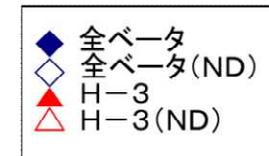
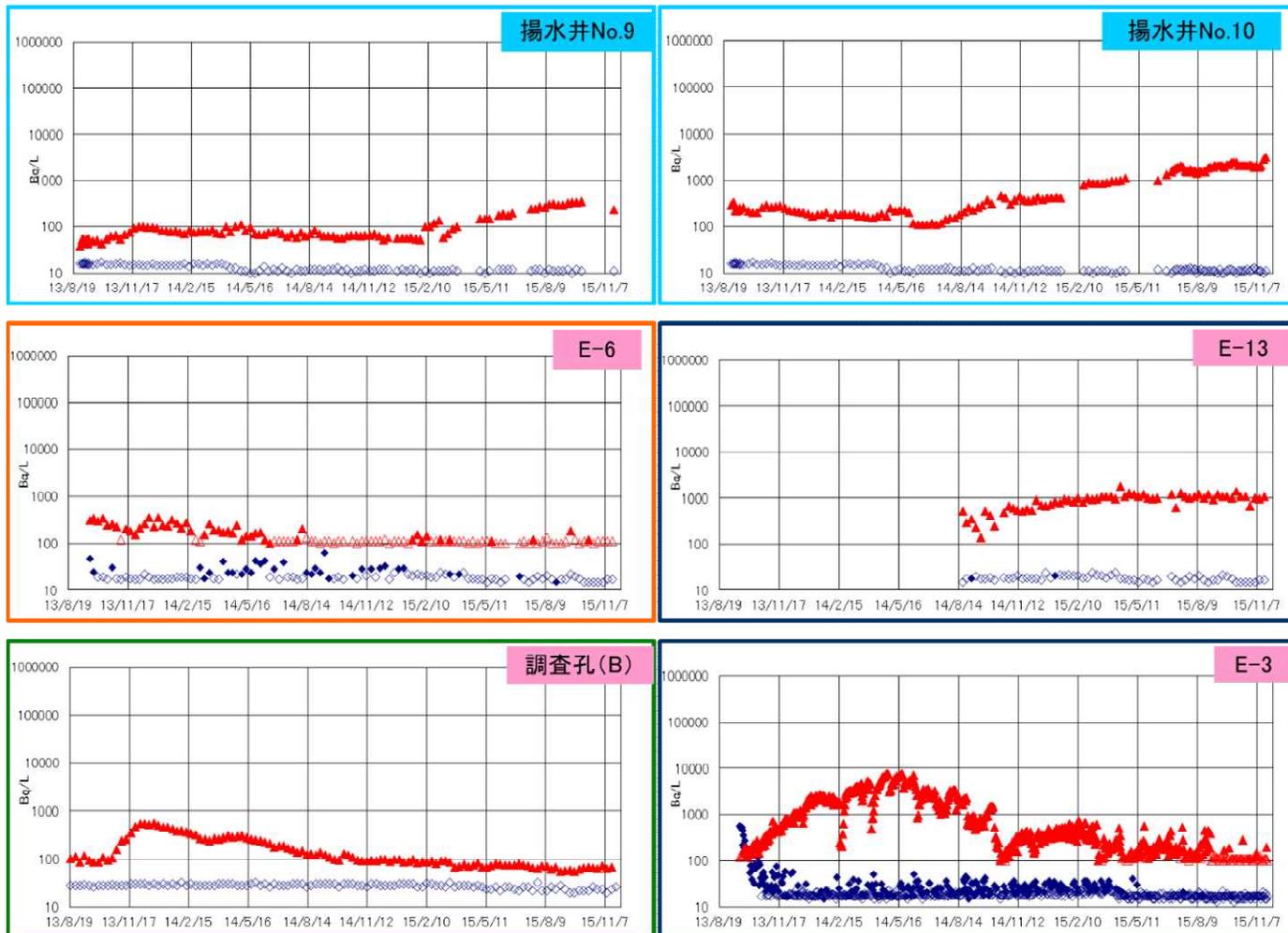
# 観測孔の放射能濃度推移 (H4タンクエリア)

- 9月上旬の降雨で全ベータ濃度が上昇した観測孔E-1、E-9は濃度が低下。
- トリチウム濃度は、E-10のみ高めであるが、他の観測孔は1000Bq/Lを下回っている。



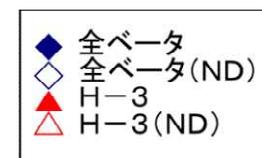
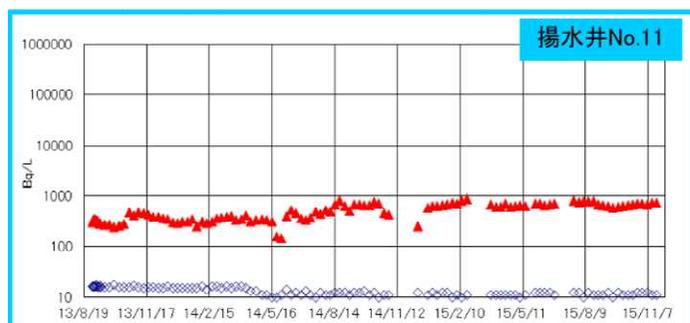
# 観測孔の放射能濃度推移 (H4タンクエリア北東側)

- 先月以降、全体の傾向に大きな変化はみられない。
- 揚水井No.10のトリチウム濃度が若干上昇。揚水井No.9はくみ上げを再開。
- その他の観測孔は横這いか低下傾向。
- 全β濃度は、全体的に低濃度で横ばい状況。

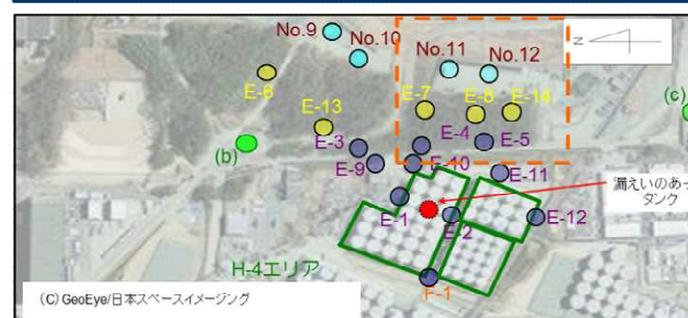
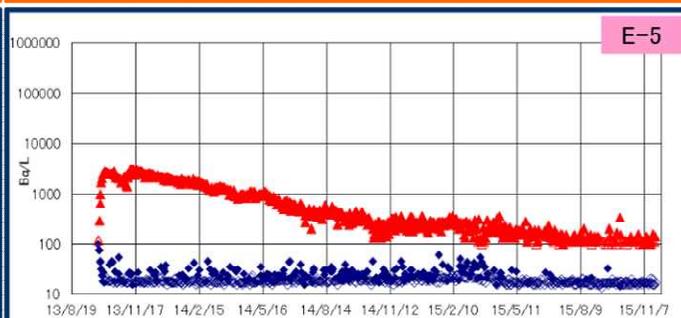
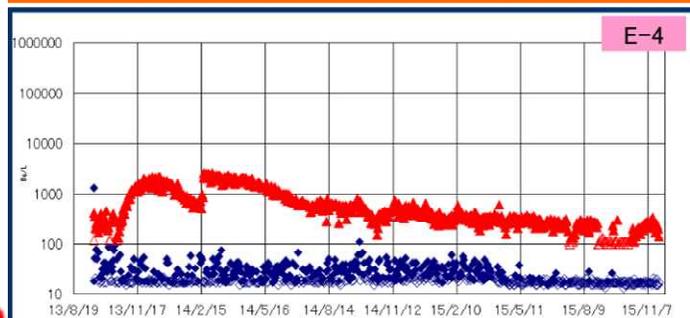
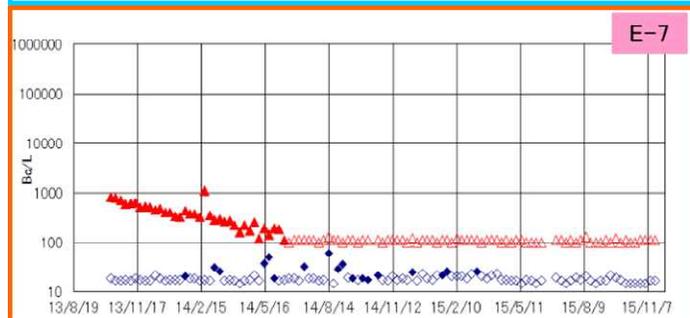


# 観測孔の放射能濃度推移 (H4タンクエリア南東側)

- 先月以降、全体の傾向に大きな変化はみられない。
- 全β濃度は、全体的に低濃度で横ばい状況。
- トリチウム濃度は、全体に1,000Bq/L以下の低濃度で横ばい又は低下傾向。
- 引き続き観測を継続する。

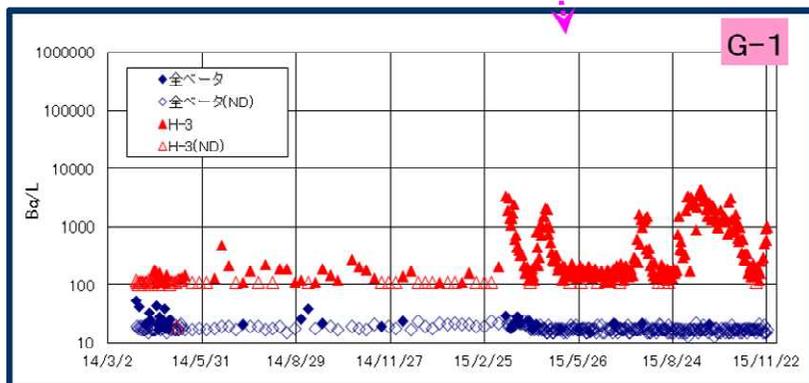
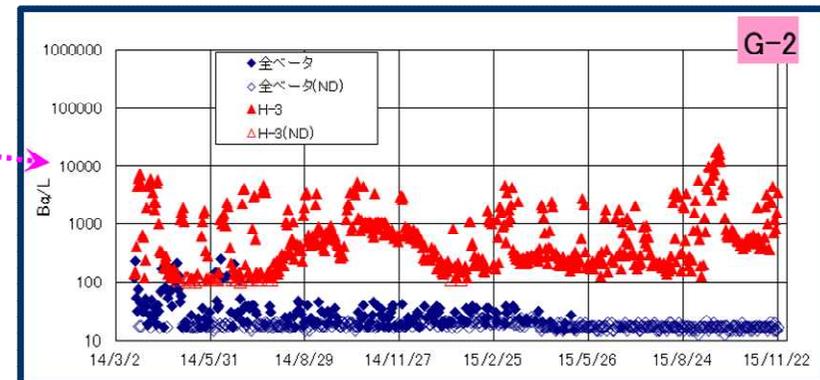
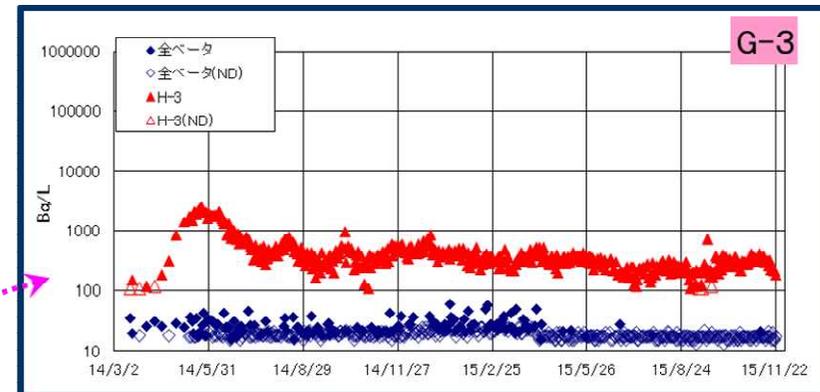
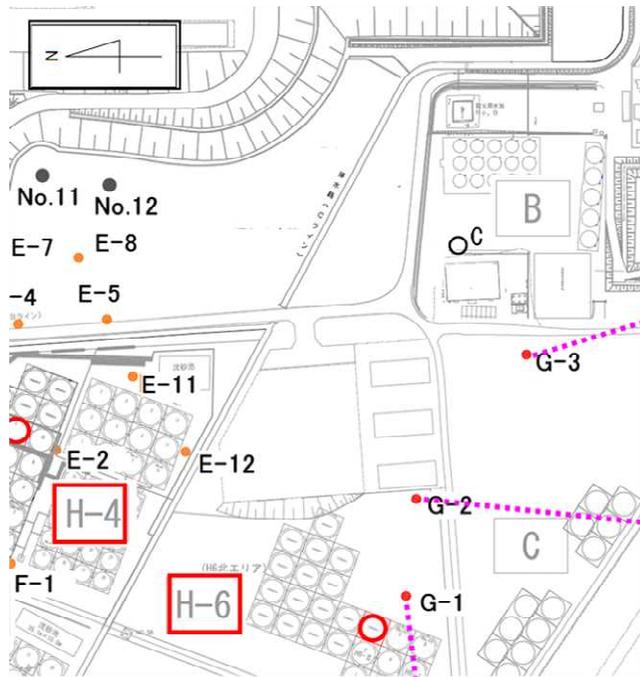


注: 揚水井No.12の全β濃度は、4/15以降も不検出であるが、検出下限値を5Bq/L以下に下げて運用しているため、グラフ上にプロットされていない。



# 観測孔の放射能濃度推移 (H6タンクエリア周辺)

- 観測孔G-1、G-2では、降雨時にこれまでと同様のトリチウム濃度の上昇がみられた。
- 全ベータ濃度は低濃度で変化は見られない。
- 引き続き監視を継続する。



## (2) 地下水バイパスの運用状況について

# 地下水バイパスの運用状況について

- 地下水バイパスは、2014年5月21日に排水を開始し、90回目の排水を完了
- 排水量は、合計 147,375m<sup>3</sup>

採水日	10月8日		10月15日		10月22日		10月29日		11月5日		運用目標	※1 告示 濃度 限度	WHO 飲料水 水質 ガイド ライン
	東京電力	第三者機関											
セシウム134 (単位: Bq/L)	ND(0.69)	ND(0.80)	ND(0.77)	ND(0.65)	ND(0.63)	ND(0.50)	ND(0.81)	ND(0.70)	ND(0.73)	ND(0.80)	1	60	10
セシウム137 (単位: Bq/L)	ND(0.56)	ND(0.62)	ND(0.53)	ND(0.50)	ND(0.67)	ND(0.58)	ND(0.67)	ND(0.50)	ND(0.64)	ND(0.50)	1	90	10
その他ガンマ核種 (単位: Bq/L)	検出なし	※2 検出され ないこと											
全ベータ (単位: Bq/L)	ND(0.80)	ND(0.58)	ND(0.80)	ND(0.54)	ND(0.78)	ND(0.54)	ND(0.90)	ND(0.54)	ND(0.80)	ND(0.59)	5(1) <sup>(注)</sup>		
トリチウム (単位: Bq/L)	170	180	170	170	160	160	150	160	150	160	1,500	60,000	10,000
排水日	10月21日		10月28日		11月4日		11月11日		11月18日				
排水量 (単位: m <sup>3</sup> )	2,006		1,825		1,808		1,722		1,494				

\* 第三者機関: 日本分析センター

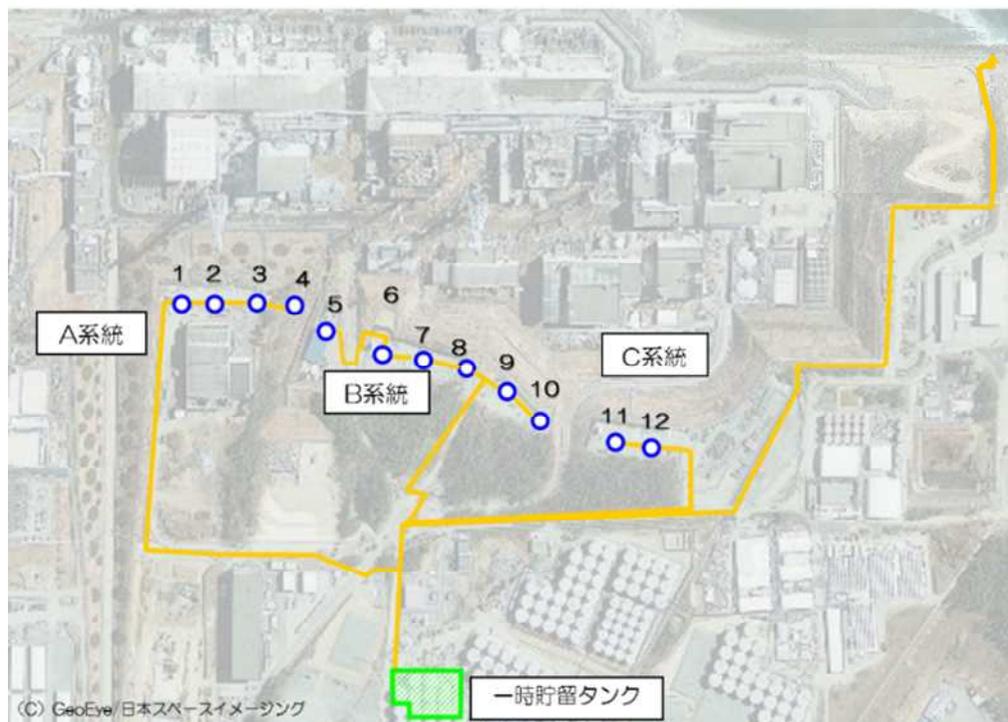
\* NDは検出限界値未満を表し、( )内に検出限界値を示す。

(注) 運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を 1 Bq/Lに下げて実施。

※1 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度  
(別表第2第六欄: 周辺監視区域外の水中の濃度限度[本表では、Bq/cm<sup>3</sup>の表記をBq/Lに換算した値を記載])

※2 セシウム134, セシウム137の検出限界値「1Bq/L未満」を確認する測定にて検出されないこと(天然核種を除く)。

# 地下水バイパス揚水井の清掃状況



地下水バイパス 揚水井配置図

2014年9月中旬頃から、揚水ポンプ吸込口などに鉄酸化細菌等が付着し、流量が低下している（鉄酸化細菌は、トンネル等に一般的に存在する細菌類）。全井戸について、鉄酸化細菌等の発生が認められているため、ポンプの運転状況を確認しつつ、適宜清掃・点検を実施中。

揚水井No	稼働状況	清掃実績
1	○	1回目：2015/9～10
2	○	1回目：2015/8～9
3	○	1回目：2015/7～9
4	○	1回目：2015/7
5	○	1回目：2015/5～7
6	○	1回目：2015/7～8
7	○	1回目：2015/6～7 2回目：2015/11下旬～12下旬（予定）
8	○	1回目：2015/5～6 2回目：2015/10/28～11/19
9	○	1回目：2015/4, 2回目：2015/6～7 3回目：2015/10/06～11/13
10	○	1回目：2015/1～2, 2回目：2015/4～6 3回目：2015/12中旬～2016/1中旬（予定）
11	○	1回目：2014/10～12, 2回目：2015/2～3 3回目：2015/6～7
12	×	1回目：2014/12～1, 2回目：2015/5～6 3回目：2015/11/16～12中旬（予定）

## 【清掃方法】

各井戸の状況を勘察し、適切な清掃方法を選定する。

- ・揚水ポンプ清掃、鋼管内壁ブラシ清掃、  
薬剤攪拌洗浄、底部土砂排出

## 【設備変更等の対策】

- ・酸素の供給抑制対策の実施

→ 揚水井No.1、2、3、4、5、6、9、11は、地下水中への酸素の取り込みを抑制する構造（循環水ライン）追設実施済。No.7、8、10、12は今後の清掃・点検に合わせ、順次追設予定。

## **(3) サブドレン他水処理施設の状況について**

### **(3)-1 サブドレン他水処理施設の状況について**

### **(3)-2 海側遮水壁閉合の状況**

# (3)-1-1. サブドレン他水処理施設の概要

●サブドレン他水処理施設は、集水設備、浄化設備、移送設備から構成される。

＜集水設備＞

サブドレン集水設備

1～4号機タービン建屋等の周辺に設置されたサブドレンピットから地下水をくみ上げる設備

地下水ドレン集水設備

海側遮水壁と既設護岸の間に設置された地下水ドレンポンドから地下水をくみ上げる設備

＜浄化設備＞

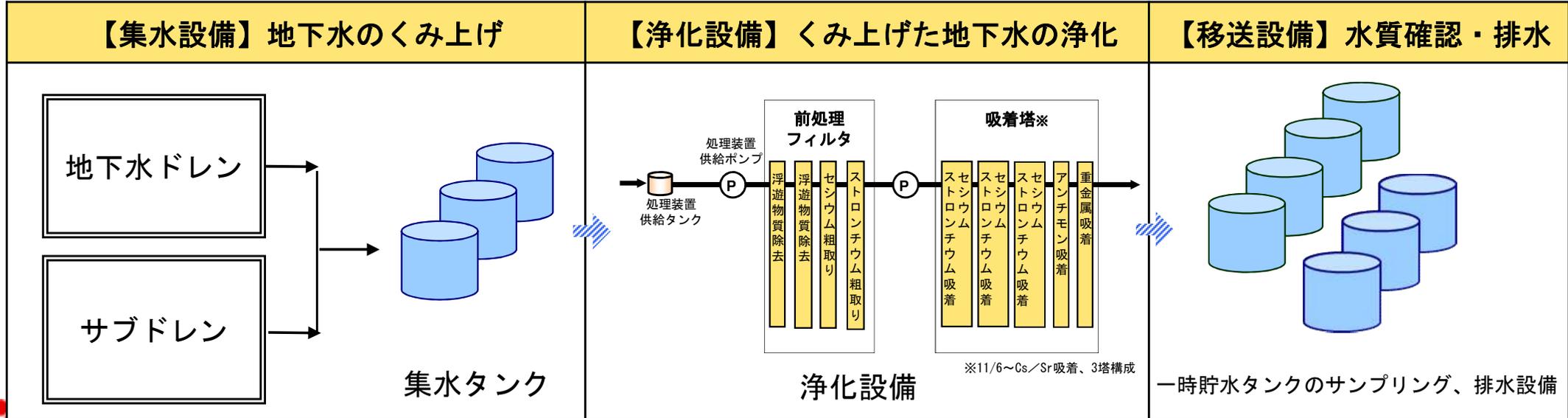
サブドレン他浄化設備

くみ上げた水に含まれている放射性核種（トリチウム除く）を十分低い濃度になるまで除去し、一時貯水タンクに貯留する設備

＜移送設備＞

サブドレン他移送設備

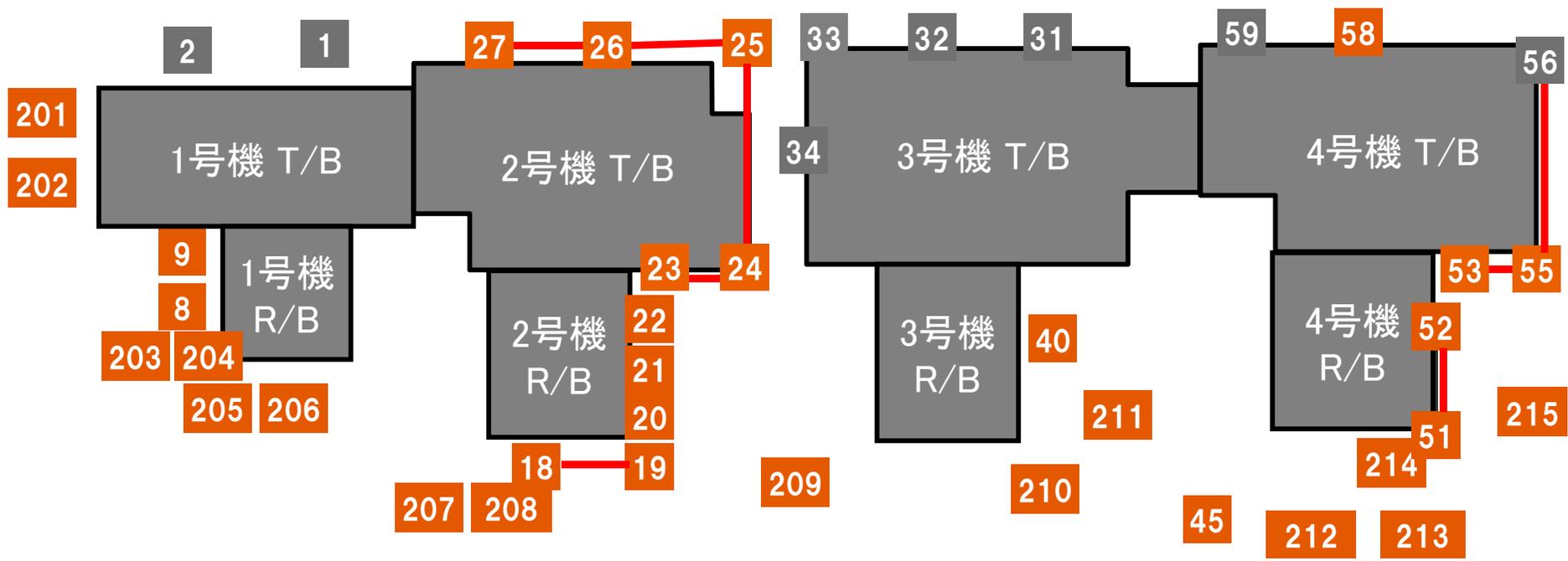
一時貯水タンクに一時貯留した処理済水を水質分析した後、排水する設備



### (3)-1-2-1. サブドレンの汲み上げ状況(24時間運転)

- 山側サブドレンL値をT.P.5,064 (O.P.6,500)から稼働し、段階的にL値の低下を実施。  
 実施期間：9月17日～  
 L値設定：11月17日～T.P.3,964 (O.P.5,400)で稼働中。
- 海側サブドレンL値をT.P. 4,064 (O.P.5,500)から稼働し、段階的にL値の低下を実施。  
 実施期間：10月30日～  
 L値設定：11月17日～T.P.3,964 (O.P.5,400)で稼働中。
- 一日あたりの平均汲み上げ量：約350m<sup>3</sup> (9月17日15時～11月23日15時)

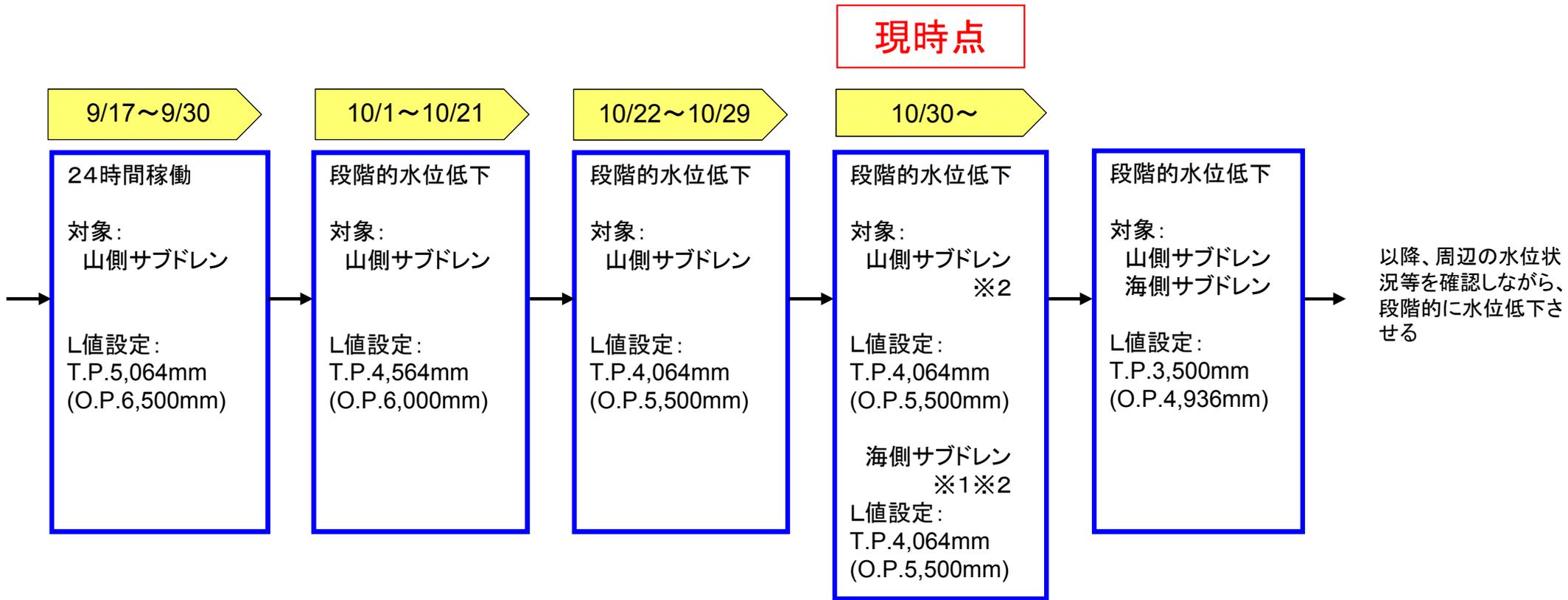
■ :稼働対象※    ■ :稼働対象外



※ 10/30より稼働を始めている海側サブドレンNo.58に加え、11/17より、No. 23,24,25,26,27,53,55 を稼働。  
 (注) No. 201～215はN1～N15と同一。

— : 横引き管

# (3)-1-2-2. サブドレン稼働状況



※1 10/30より、No.58ピットをL値設定T.P.4,064mm(O.P.5,500mm)で稼働。  
 ※2 11/17より、T.P.3,964mm (O.P.5,400mm)で稼働。

### (3)-1-3-1. 排水実績

- サブドレン他浄化設備は、2015年9月14日に排水を開始し、11月21日までに33回目の排水を完了。排水量は、合計23,170m<sup>3</sup>。
- 一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標（Cs134=1, Cs137=1, 全β=3, H3=1,500(Bq/L)）未満である。

排水日		10/30	10/31	11/3	11/6	11/7	11/8
一時貯水タンクNo.		B	C	D	E	F	G
浄化後の水質 (Bq/L)	試料採取日	10/19	10/21	10/25	10/28	10/27	10/30
	Cs-134	ND(0.68)	ND(0.67)	ND(0.71)	ND(0.71)	ND(0.71)	ND(0.75)
	Cs-137	ND(0.63)	ND(0.53)	ND(0.53)	ND(0.62)	ND(0.68)	ND(0.59)
	全β	ND(0.74)	ND(0.63)	ND(1.9)	ND(2.1)	ND(2.1)	ND(0.76)
	H-3	230	200	220	180	220	210
排水量(m <sup>3</sup> )		622	557	630	557	706	660
浄化前の水質 (Bq/L)	試料採取日	10/17	10/19	10/21	10/23	10/25	10/27
	Cs-134	18	30	14	21	22	13
	Cs-137	94	110	67	86	110	99
	全β	—	130	—	—	—	—
	H-3	230	210	130	190	190	250

\* NDは検出限界値未満を表し、( )内に検出限界値を示す。

\* 運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を1 Bq/Lに下げて実施。

\* 浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。

### (3)-1-3-2. 排水実績

排水日		11/12	11/13	11/14	11/16	11/19	11/20	11/21
一時貯水タンクNo.		A	B	C	D	E	F	G
浄化後の水質 (Bq/L)	試料採取日	10/31	11/2	11/4	11/9	11/8	11/10	11/12
	Cs-134	ND(0.83)	ND(0.65)	ND(0.78)	ND(0.82)	ND(0.73)	ND(0.71)	ND(0.81)
	Cs-137	ND(0.53)	ND(0.73)	ND(0.65)	ND(0.75)	ND(0.76)	ND(0.61)	ND(0.64)
	全β	ND(2.0)	ND(0.79)	ND(2.1)	ND(2.2)	ND(2.2)	ND(0.74)	ND(2.2)
	H-3	200	200	170	210	210	210	240
排水量(m <sup>3</sup> )		649	617	599	623	608	684	742
浄化前の水質 (Bq/L)	試料採取日	10/29	10/31	11/2	11/4	11/6	11/8	11/10
	Cs-134	16	24	19	14	28	21	15
	Cs-137	73	110	70	93	130	87	62
	全β	110	—	86	—	—	—	120
	H-3	180	190	140	220	220	230	220

\* NDは検出限界値未満を表し、( )内に検出限界値を示す。

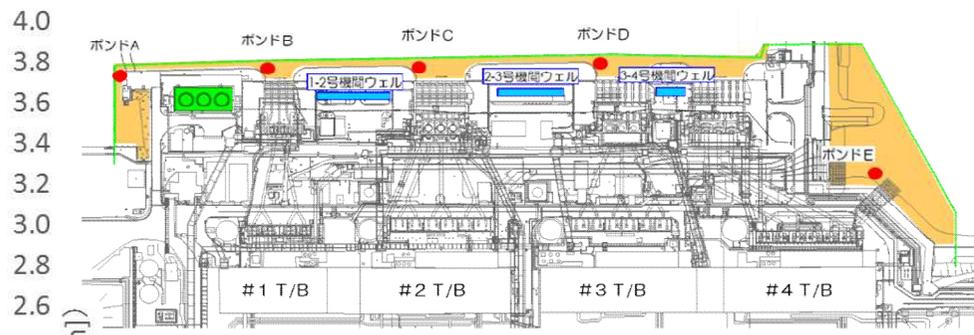
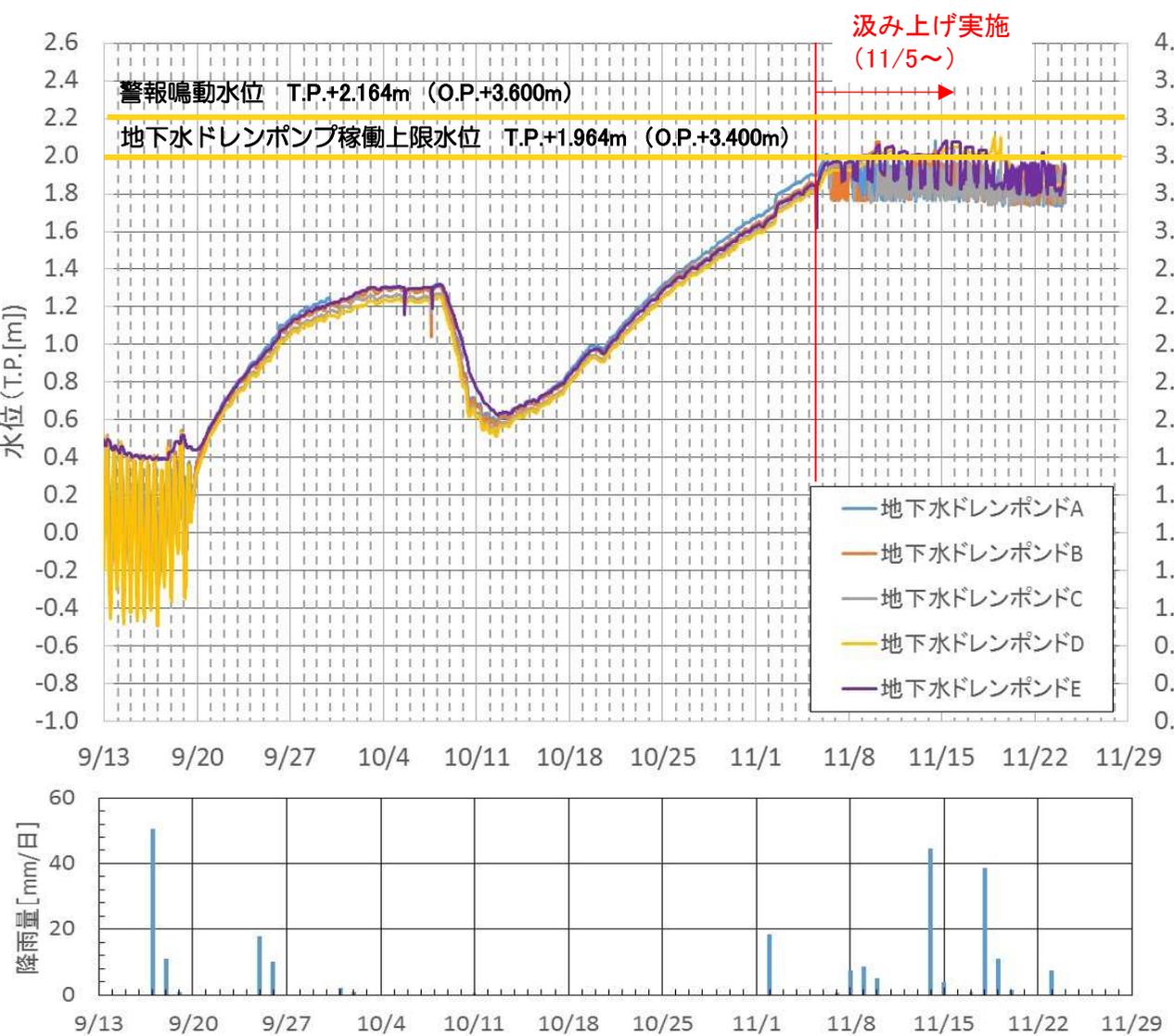
\* 運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を 1 Bq/Lに下げて実施。

\* 浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。



# <参考1> 地下水ドレン水位および稼働状況

◆ 海側遮水壁の閉合以降、地下水ドレンポンド水位が上昇したことから、11/5より汲み上げを開始。



サブドレン集水タンク及びT/B移送量(m<sup>3</sup>/日平均)

移送先	地下水ドレン					
	ポンドA	ポンドB	ポンドC		ポンドD	ポンドE
	T/B	T/B	T/B	集水タンク	T/B	集水タンク
11/5~11/11	116		36	1	0	28
11/12~11/18	142		85	0	0	42
11/19~11/23	178		167 *1	0	- *1	79

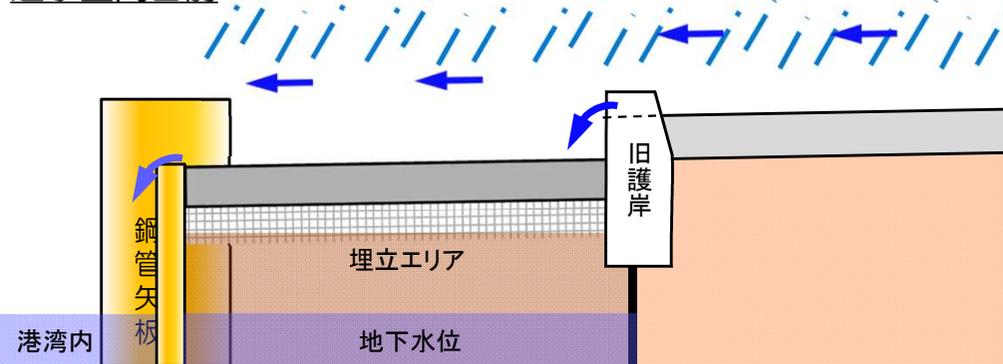
移送先のT/Bはタービン建屋、集水タンクはサブドレン集水タンク  
\*1: 167 (m<sup>3</sup>/日) はポンドCとポンドDの合計値

※水位(O.P.)は、震災前標高と比較しやすいよう、目安として記載しているもの。  
(水位(T.P.)を水位(O.P.)に換算する場合は、約1.4m~1.5m加算する。)

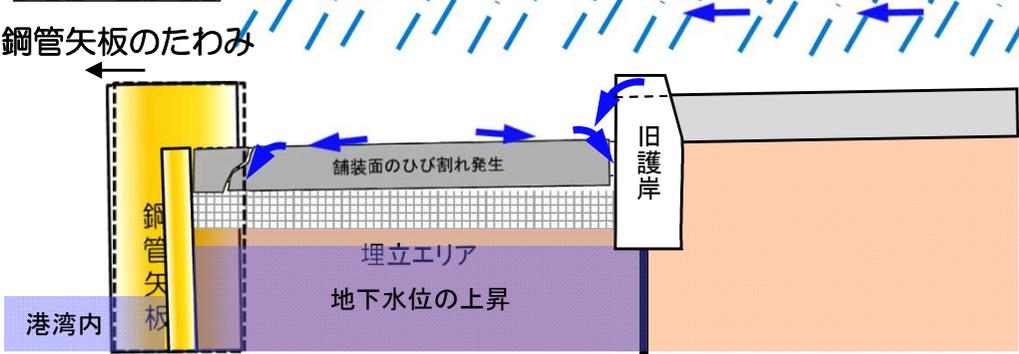
## <参考2>埋立地舗装面等の状況について

- 海側遮水壁閉合後、地下水位上昇に伴い鋼管矢板のたわみが増加し、舗装面の一部にひび割れ等が発生。
- 鋼管矢板は素材（金属）の特性上たわみは発生するが、鋼管矢板の健全性・遮水性能には影響しない。
- 一方、舗装面のひび割れ箇所からは雨水が入り、地下水ドレン汲み上げ量が増加しているため、急ぎ補修を進めているところ（11月末完了予定）。今後も点検を継続し、状況に応じて補修を実施していく。
- 鋼管矢板の継手にかかる負荷を軽減することを目的として杭頭を結合する鋼材を設置。特にコーナー部では大きな力が作用するため鋼材を補強中。

遮水壁閉合前



遮水壁閉合後



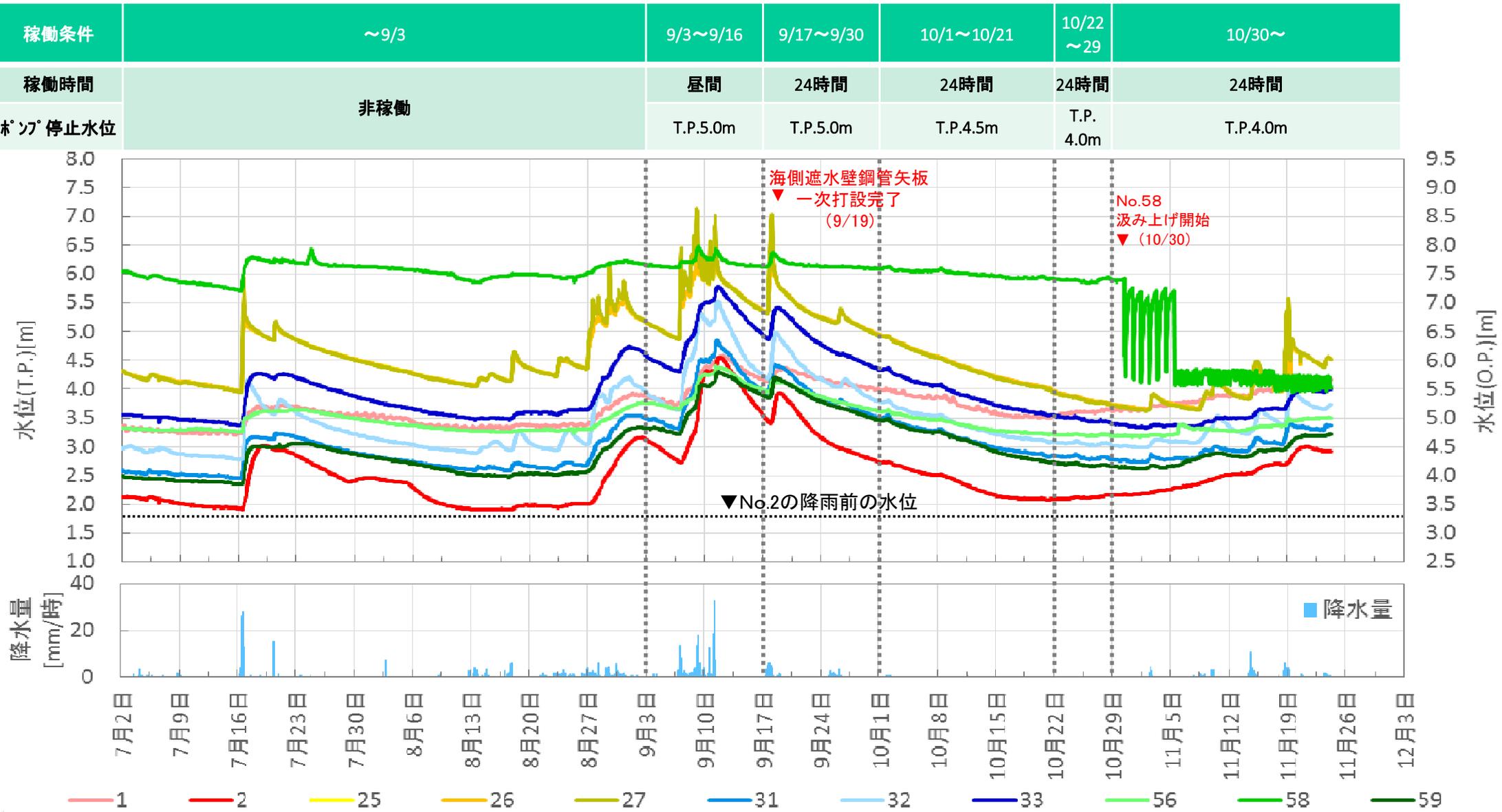
補修実施状況（ポリウレタ吹付箇所の一例）



コーナー部における鋼材の補強状況

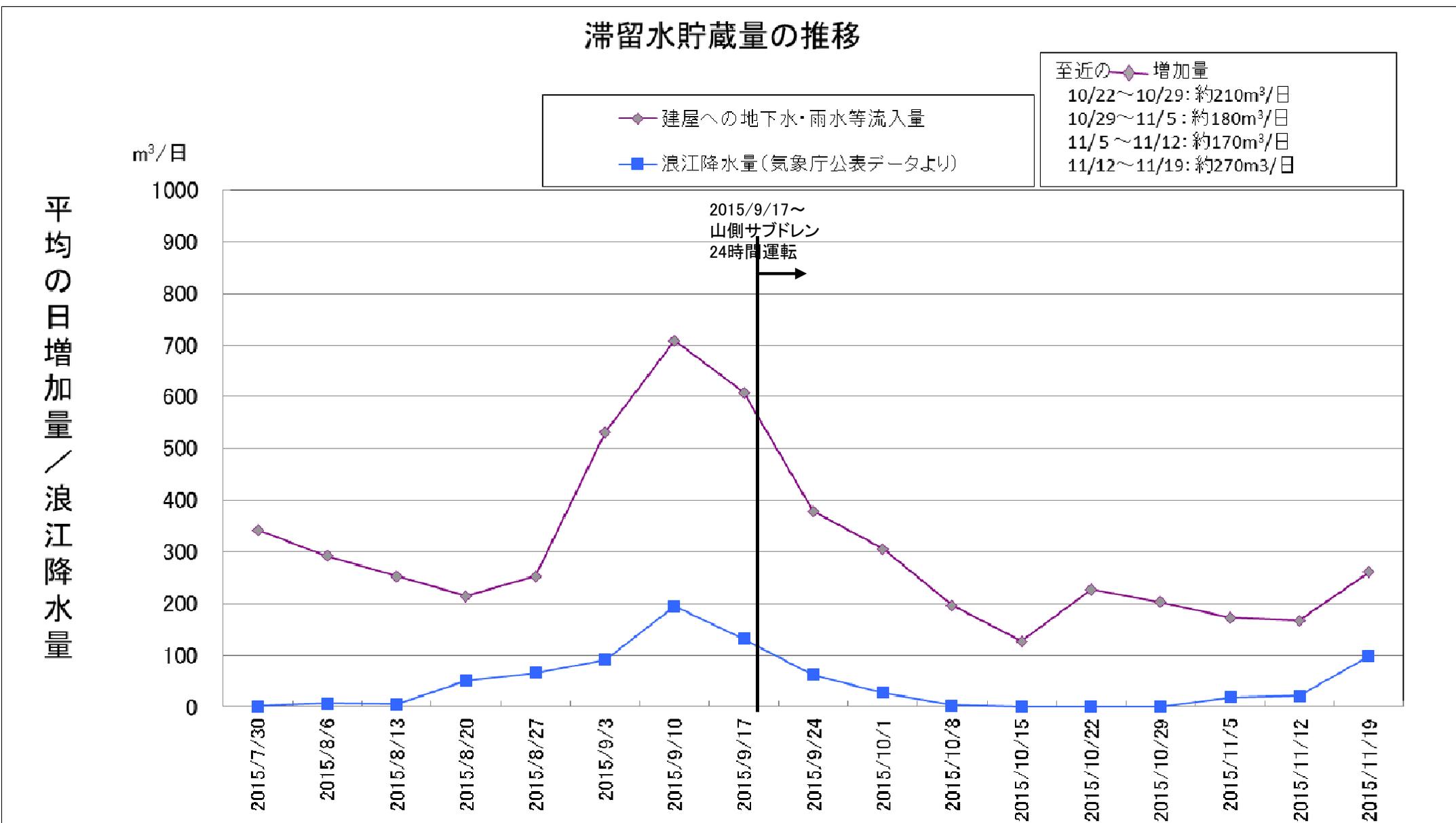
# <参考3> 海側に位置するサブドレンの水位変動

- ◆ 山側サブドレン稼働の影響は見られず、海側サブドレンの水位は概ね安定傾向にある。
- ◆ 海側遮水壁継手止水処理完了以降、海側サブドレン水位は徐々に下げ止まり傾向を示し、その後概ね上昇傾向を示している。



# <参考4> 建屋流入量実績

- サブドレン稼働前後の建屋流入量（滞留水貯蔵量の推移）



# < 参考5 > 地下水ドレン水位と港湾内海水中放射性物質濃度の推移

赤字下線修正(2015年12月9日)

## 地下水ドレン水位と港湾内海水中放射性物質濃度の推移

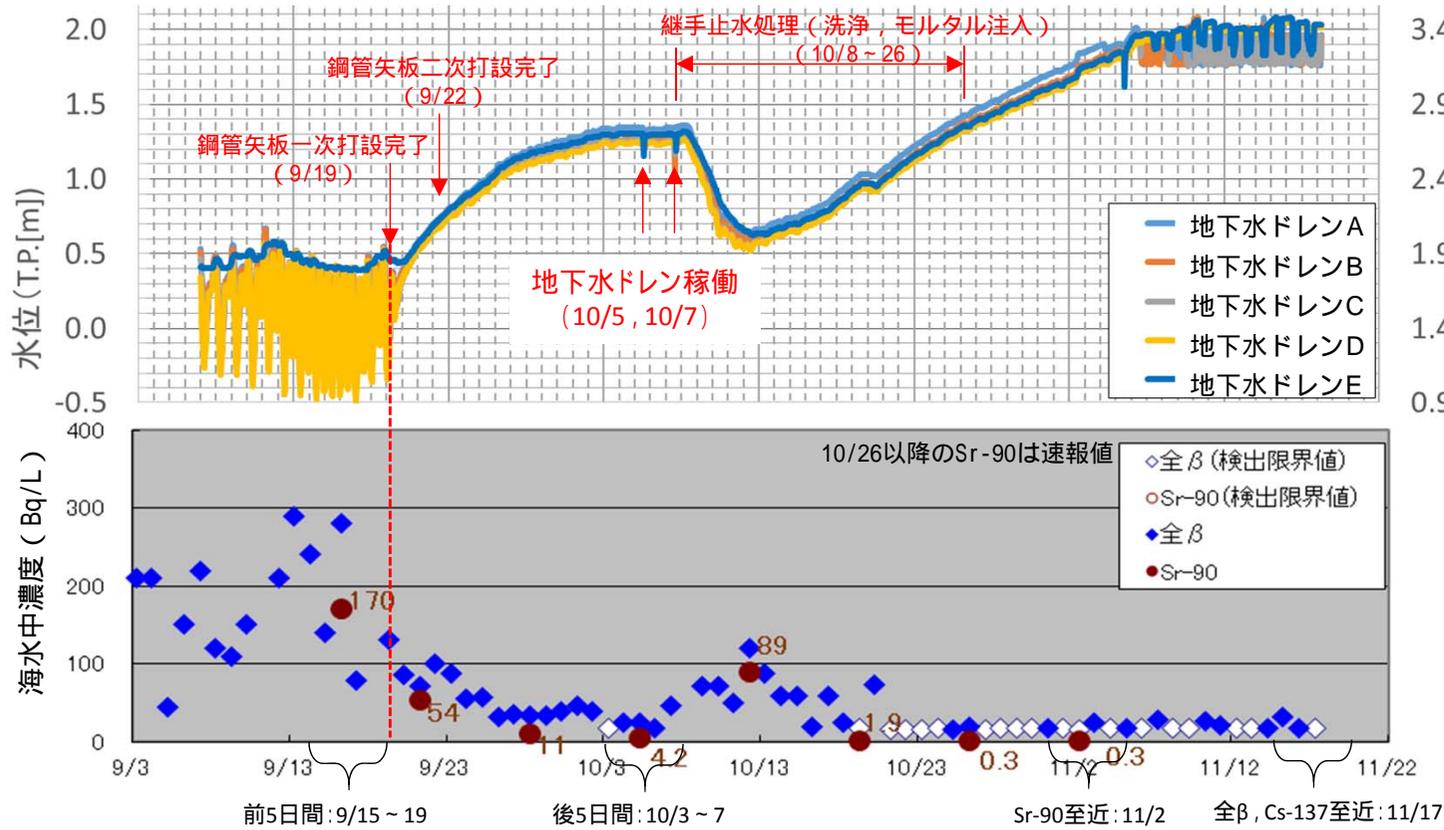


表 1 ~ 4号機取水口開渠内及び開渠外の測定地点における海水中放射性物質濃度平均値 (Bq/L)

		前5日間 平均値 <sup>1</sup>	後5日間 平均値 <sup>2</sup>	至近 平均値 <sup>3</sup>
全	開渠内	150	26	17
	開渠外	27	16	16
Sr-90	開渠内	140	4.2	0.3
	開渠外	16	-	4.0
Cs-137	開渠内	16	3.8	3.8
	開渠外	2.7	1.1	1.0
H-3	開渠内	<u>220</u>	110	38
	開渠外	1.9	9.4	3.4

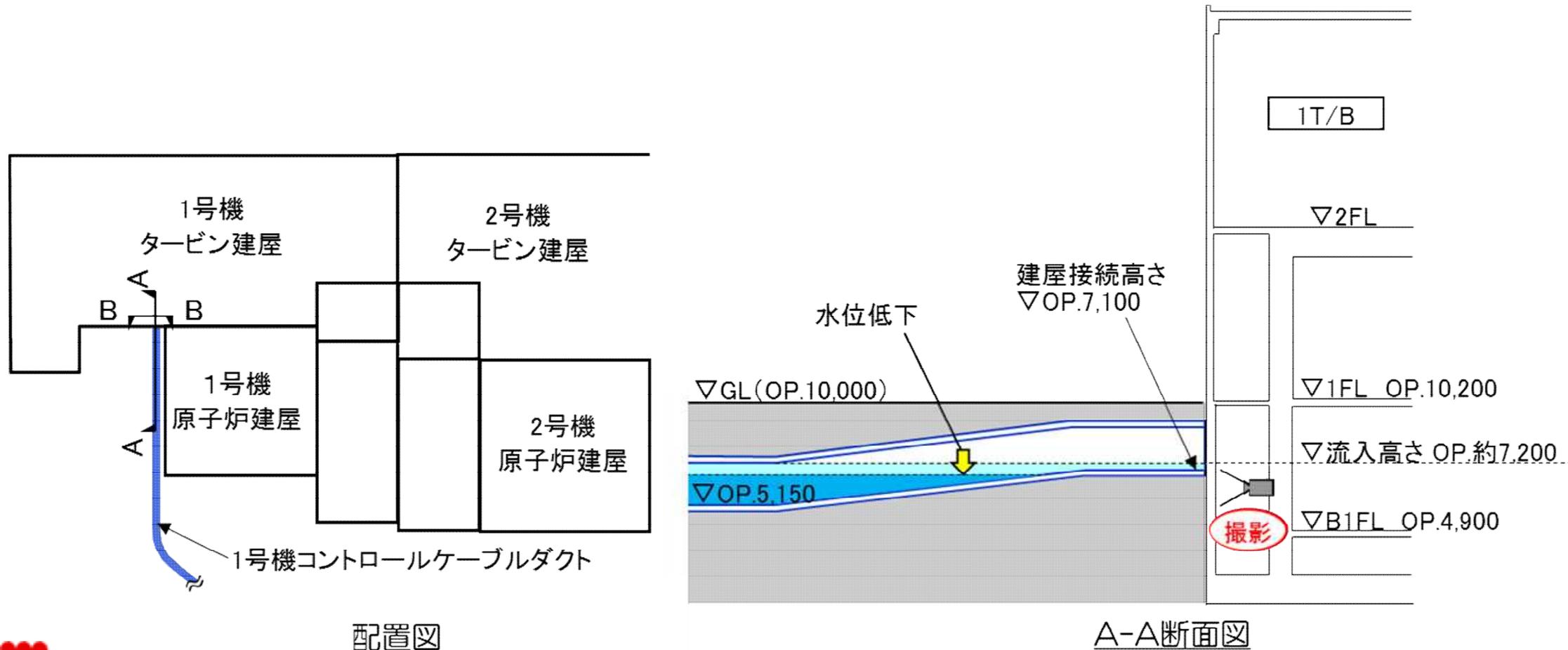
1 H-3については、前5日間のデータがないため、前10日間の平均値  
 2 後5日間は、地下水ドレン水位が一定及び降雨がない期間を選定  
 3 全βとCs-137は11/17, Sr-90開渠内は11/2, Sr-90開渠外は10/12, H-3は11/9

図 地下水ドレン水位と1~4号機取水口開渠内(南側遮水壁前)海水中放射性物質濃度の推移

- 地下水ドレンポンド水位は、鋼管矢板打設後上昇し、継手洗浄(10/8~9,10/19)後に一時低下がみられたが、継手へのモルタル注入により上昇し、地下水ドレンの稼働により制御。
- 港湾内の海水中の全β濃度は、地下水ドレン水位に連動して低下し、地下水ドレン稼働後もその状況が継続。Sr-90の分析でも同様なデータが得られている。
- Csについても低い濃度で推移しているが、排水路の濃度も低くなっており、今後もモニタリングを継続

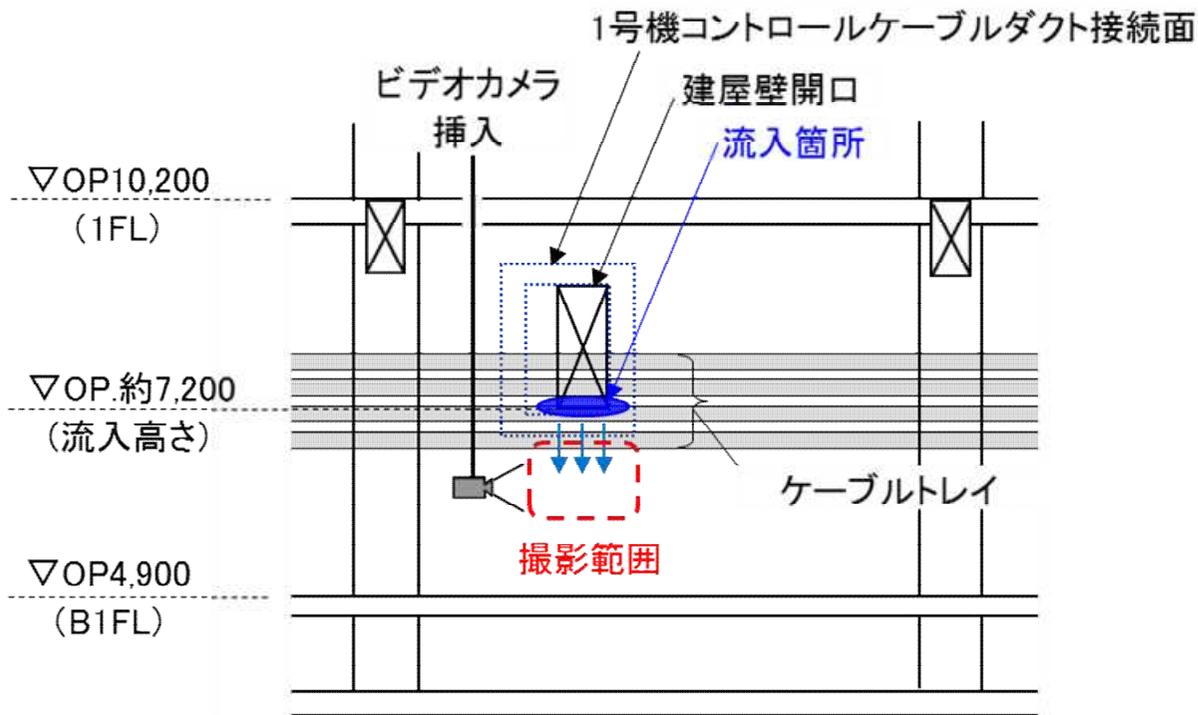
## <参考6> 1号機コントロールケーブルダクトからの地下水流入状況調査果について

- 2013年8月30日に1号機コントロールケーブルダクト（内寸H2.0m×W1.4m）から1号機タービン建屋への地下水流入が確認されている。
- 11月12日，当該ダクトからの地下水流入状況を再調査したところ，流入が停止していることを確認した。
- サブドレン稼働による地下水位の低下に伴い，当該ダクト内の水位が1号機タービン建屋への接続高さを下回ったことにより流入が停止したものと考えられる。



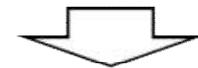
## <参考6> 地下水流入状況調査結果

- 1号機タービン建屋1階からビデオカメラを地下1階に挿入し、流入状況を撮影した。
- 2013年8月30日の調査では地下水が流入して落水する様子が確認されたが、11月12日の調査では地下水の流入が確認されなかった。



B-B断面図

撮影日: 2013年8月30日



撮影日: 2015年11月12日



流入箇所下部の写真